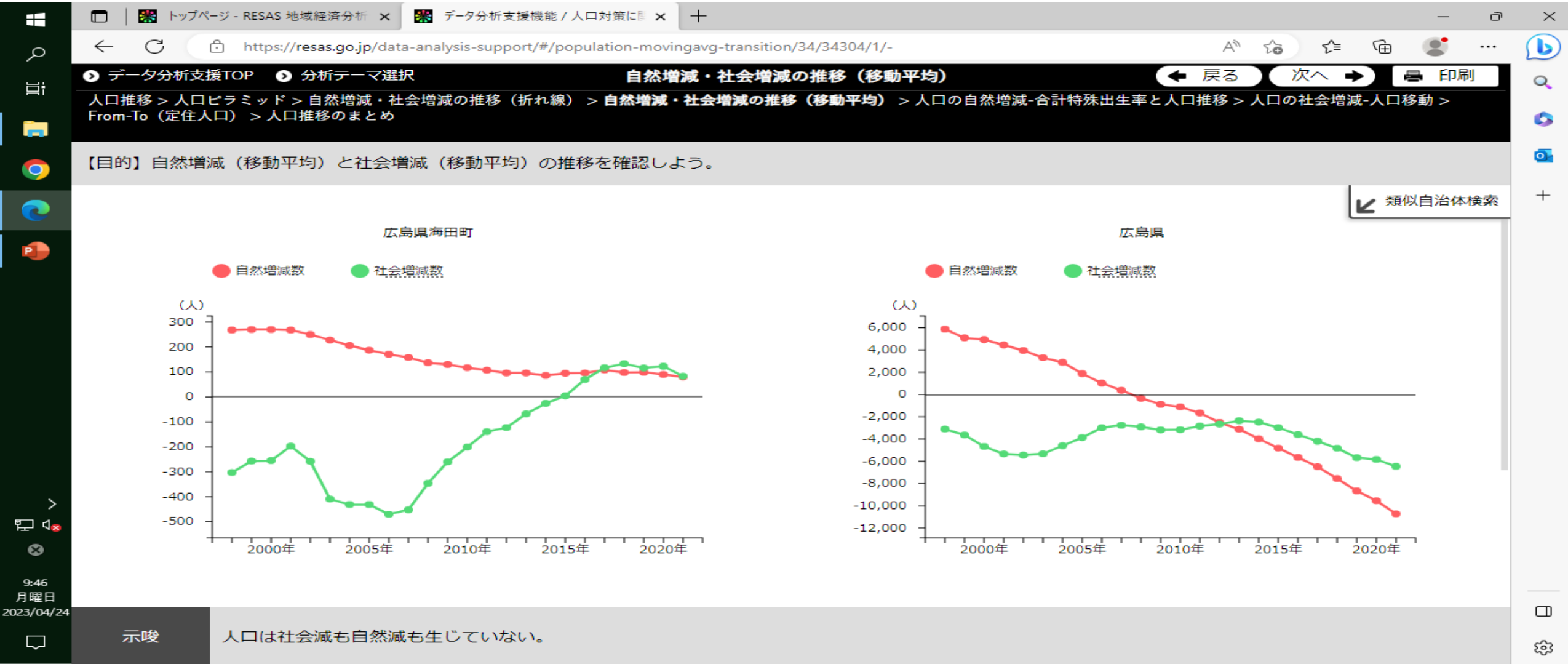


Point (仮説1) 町の人口動態について、90人(自然増)+90人(社会増)の180人を維持することで、人口動態が安定して推移するよう、生まれ育てる都市を目指した施策を進める。



「自然増加の多い町村（総計）」
令和4年 海田町は+35人で全国6位
(926先中, 町743村183)

＜市区町村別：【総計】自然増加＞

○最も自然増加数の多い市区は東京都中央区、町村は福岡県粕屋町
最も自然増加率の大きい市区は東京都中央区、町村は東京都青ヶ島村

総計において、最も自然増加数の多い市区は東京都中央区（882人）、町村は福岡県粕屋町（195人）で、最も自然増加率の大きい市区は東京都中央区（0.51%）、町村は東京都青ヶ島村（2.35%）となっている。（第18-3・18-4表参照）

全国の自然減少数は
15年連続で拡大
(R4年は対前年で
日本人住民の自然増減数
△793,324人)

第18-3表 自然増加の多い市区【総計】（令和4年中）

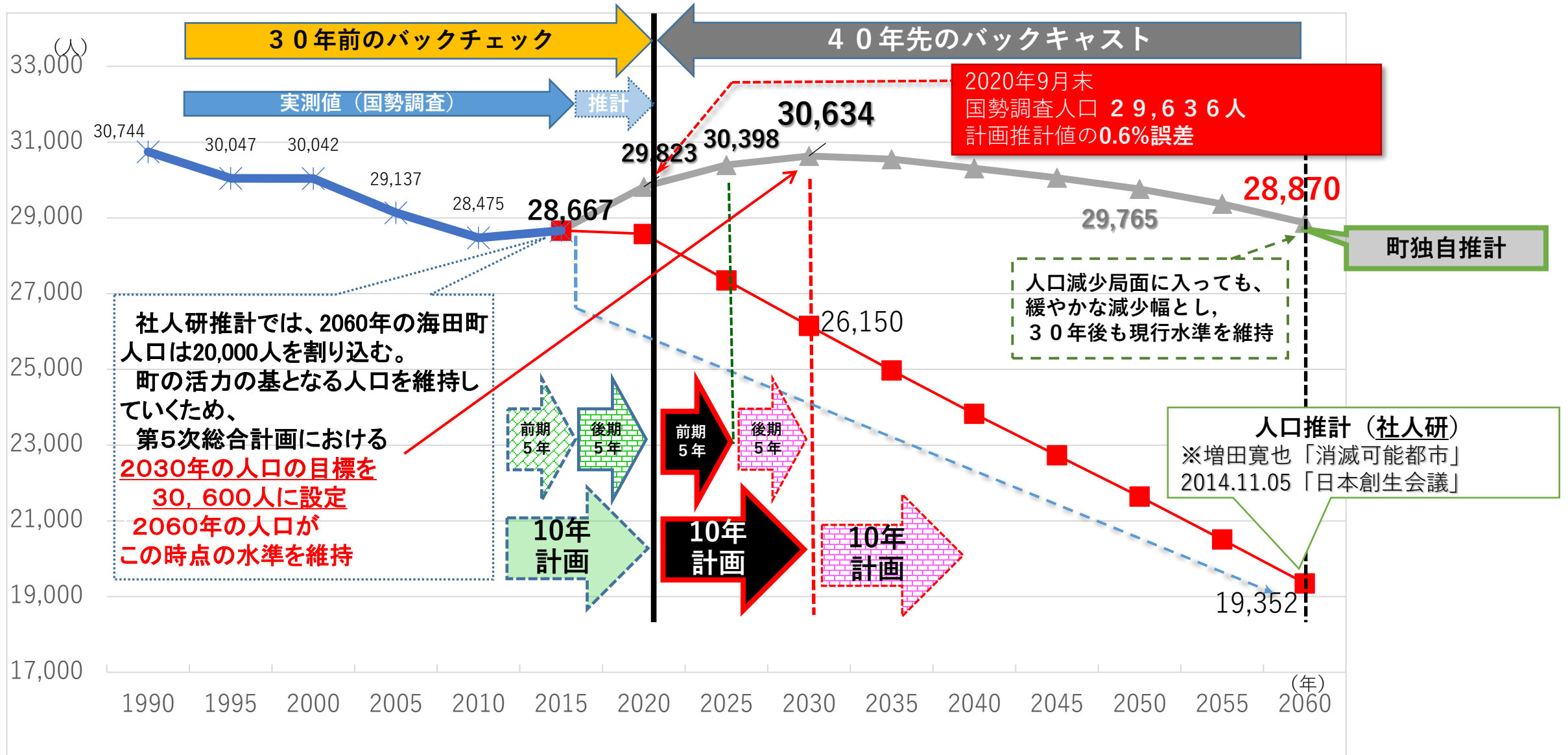
自然増減数			自然増減率		
順位	市区名	人	順位	市区名	%
1	ちゅうおうく 中央区 (東京都)	882	1	ちゅうおうく 中央区 (東京都)	0.51
2	みなとく 港区 (東京都)	595	2	ながてし 長久手市 (愛知県)	0.36
3	ながれやまし 流山市 (千葉県)	234	3	りつとうし 栗東市 (滋賀県)	0.28
4	ながてし 長久手市 (愛知県)	215	4	とみぐすくし 豊見城市 (沖縄県)	0.26
5	うらそえし 浦添市 (沖縄県)	213	5	みなとく 港区 (東京都)	0.23
6	ぎのわんし 宜野湾市 (沖縄県)	211	6	かいいたちよう 宜野湾市 (沖縄県)	0.21
7	りつとうし 栗東市 (滋賀県)	197	7	ののいちし 野々市市 (石川県)	0.19
8	とみぐすくし 豊見城市 (沖縄県)	173	8	うらそえし 浦添市 (沖縄県)	0.184
9	つくばし つくば市 (茨城県)	164	9	ちよだく 千代田区 (東京都)	0.177
10	にっしんし 日進市 (愛知県)	120	10	にっしんし 日進市 (愛知県)	0.129

第18-4表 自然増加の多い町村【総計】（令和4年中）

自然増減数			自然増減率		
順位	町村名	人	順位	町村名	%
1	かすやまち 粕屋町 (福岡県)	195	1	あおがしまむら 青ヶ島村 (東京都)	2.35
2	はえばるちよう 南風原町 (沖縄県)	190	2	とかしきそん 渡嘉敷村 (沖縄県)	0.56
3	きくようまち 菊陽町 (熊本県)	123	3	はえばるちよう 南風原町 (沖縄県)	0.47
4	なかぐすくそん 中城村 (沖縄県)	55	4	かすやまち 粕屋町 (福岡県)	0.40
5	ちやたんちよう 北谷町 (沖縄県)	42	5	あさひちよう 朝日町 (三重県)	0.29
6	かいいたちよう 海田町 (広島県)	35	6	きくようまち 菊陽町 (熊本県)	0.28
7	あさひちよう 朝日町 (三重県)	32	7	なかぐすくそん 中城村 (沖縄県)	0.25
8	しょうわちよう 昭和町 (山梨県)	24	8	おがさわらむら 小笠原村 (東京都)	0.23
9	かわごえちよう 川越町 (三重県)	19	9	よなぐにちよう 与那国町 (沖縄県)	0.18
10	しんぐうまち 新宮町 (福岡県)	18	10	ちやたんちよう 北谷町 (沖縄県)	0.14

海田町の第5次総合計画期間における人口推計

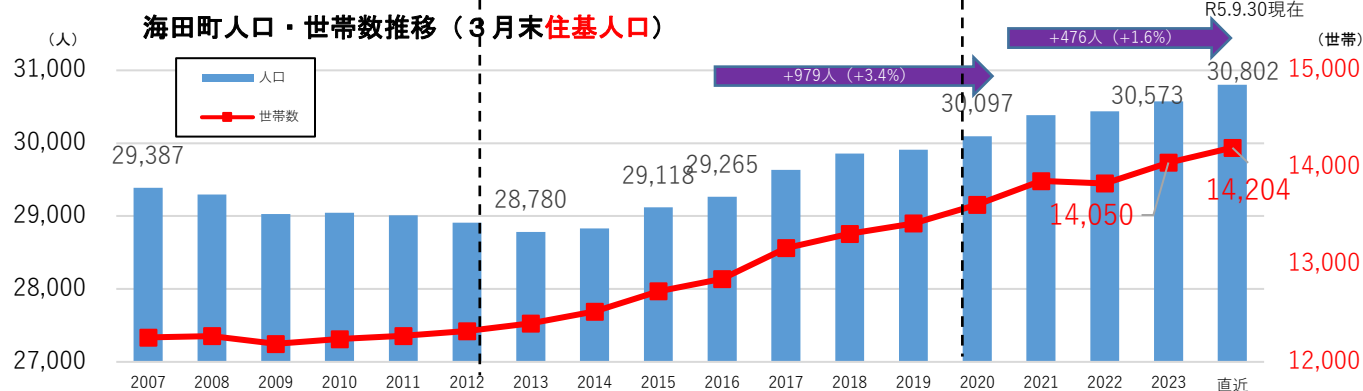
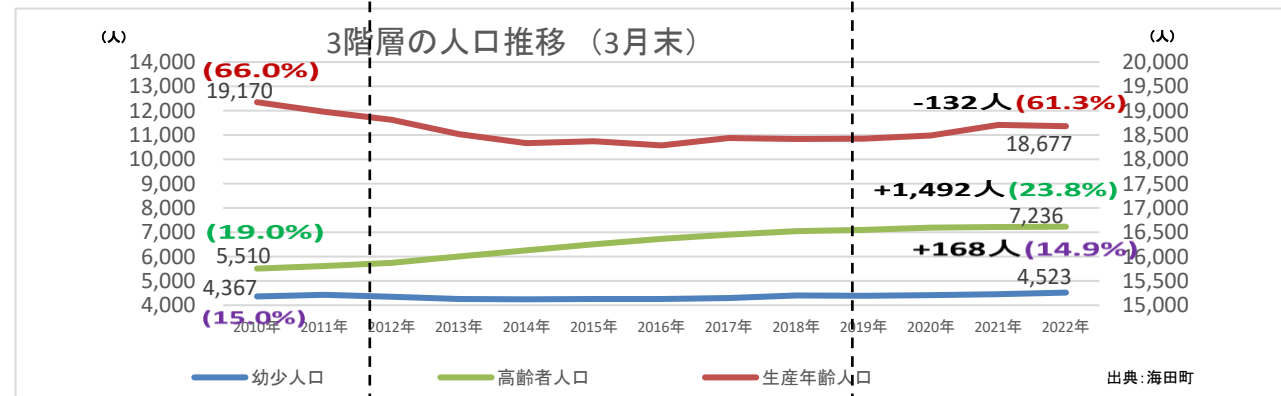
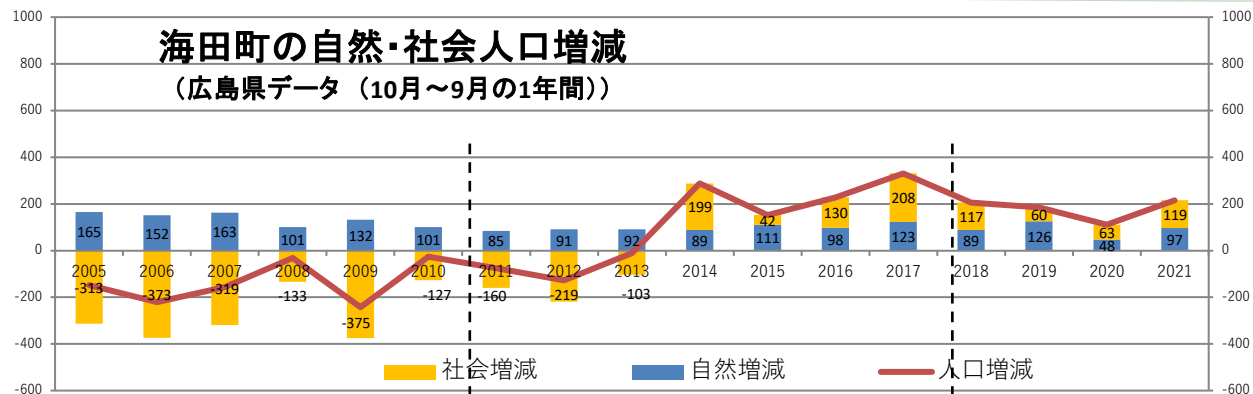
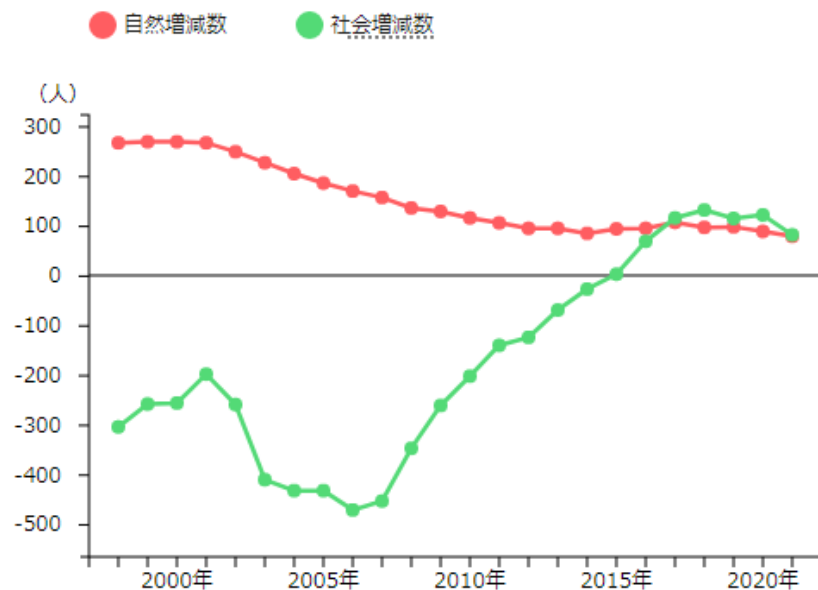
Point (仮説2) 40年後の2060年の人口が2015年の水準を下回らないようにするため2030年の人口の目標を30,600人に設定



Point (仮説1の結果)

- 平成25(2013)年までは社会減、自然増であったが、平成26(2014)年からは社会増、自然増に転じる。
- 年齢別にみると、20～29歳の子育て世代が県内から転入しているケースが多い
- 年齢3区分別にみると、
0～14歳は14.9% (県内市町で最も高い)
15～64歳は61.3% (県内2位)
65歳以上は23.8% (県内で低い方から2位)

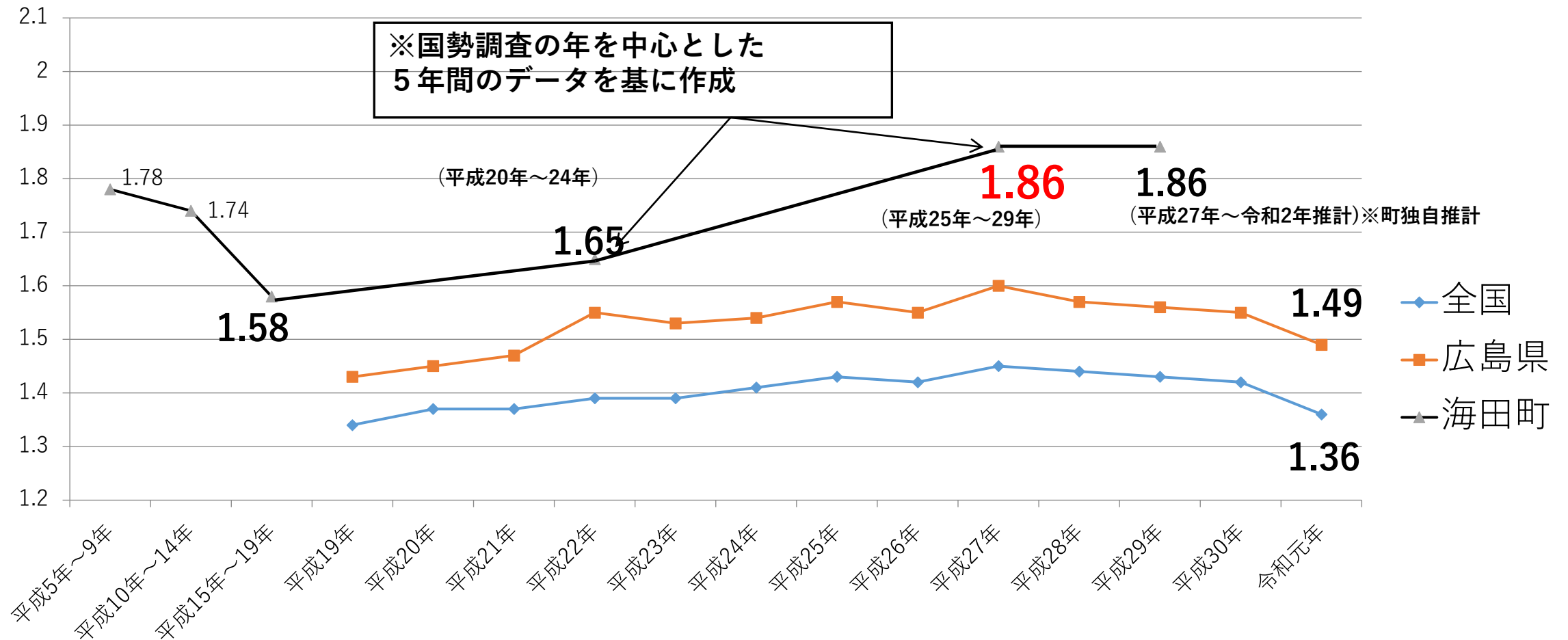
広島県海田町



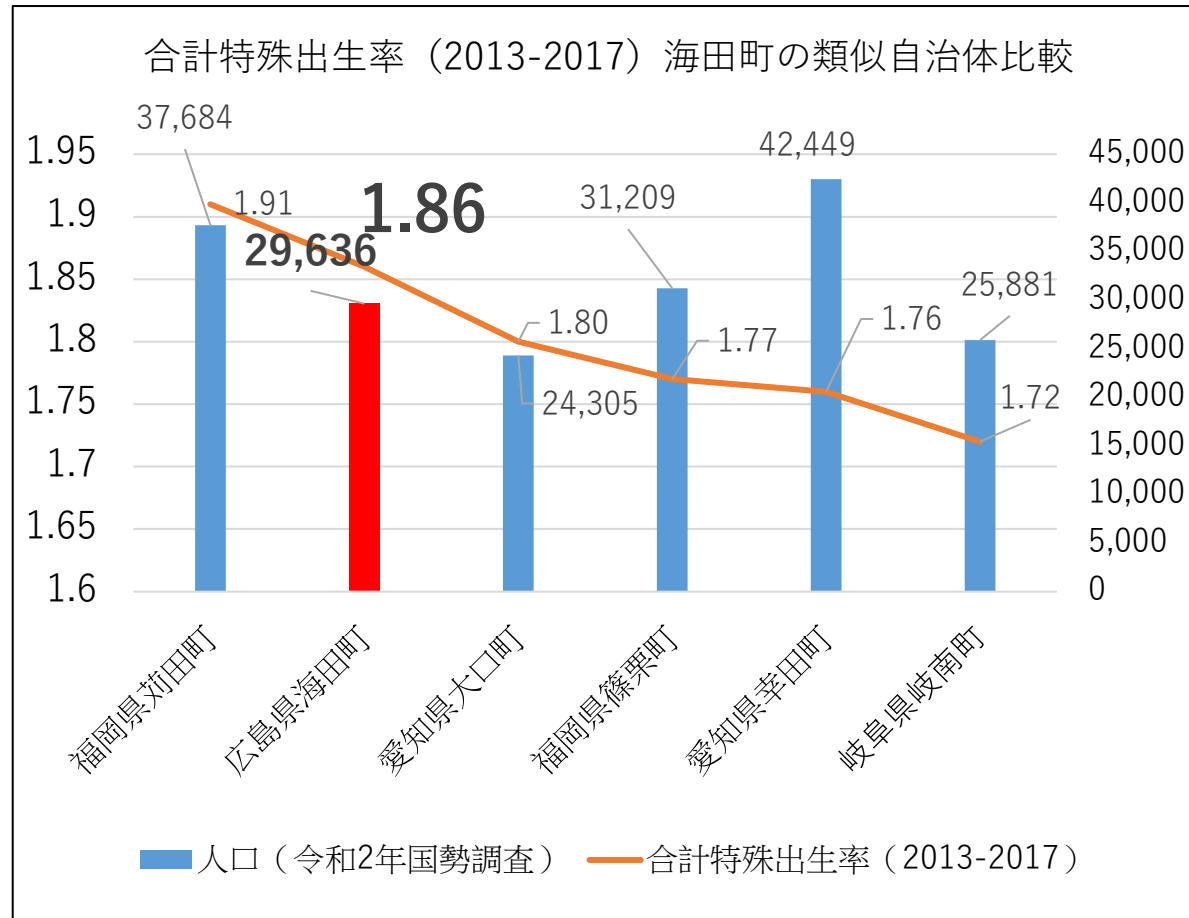
Point (仮説1の要因)

海田町の合計特殊出生率は平成15年～19年平均の1.58から上昇傾向にあり、平成25年～29年の平均で1.86と、広島県平均や全国平均を大きく上回っています。

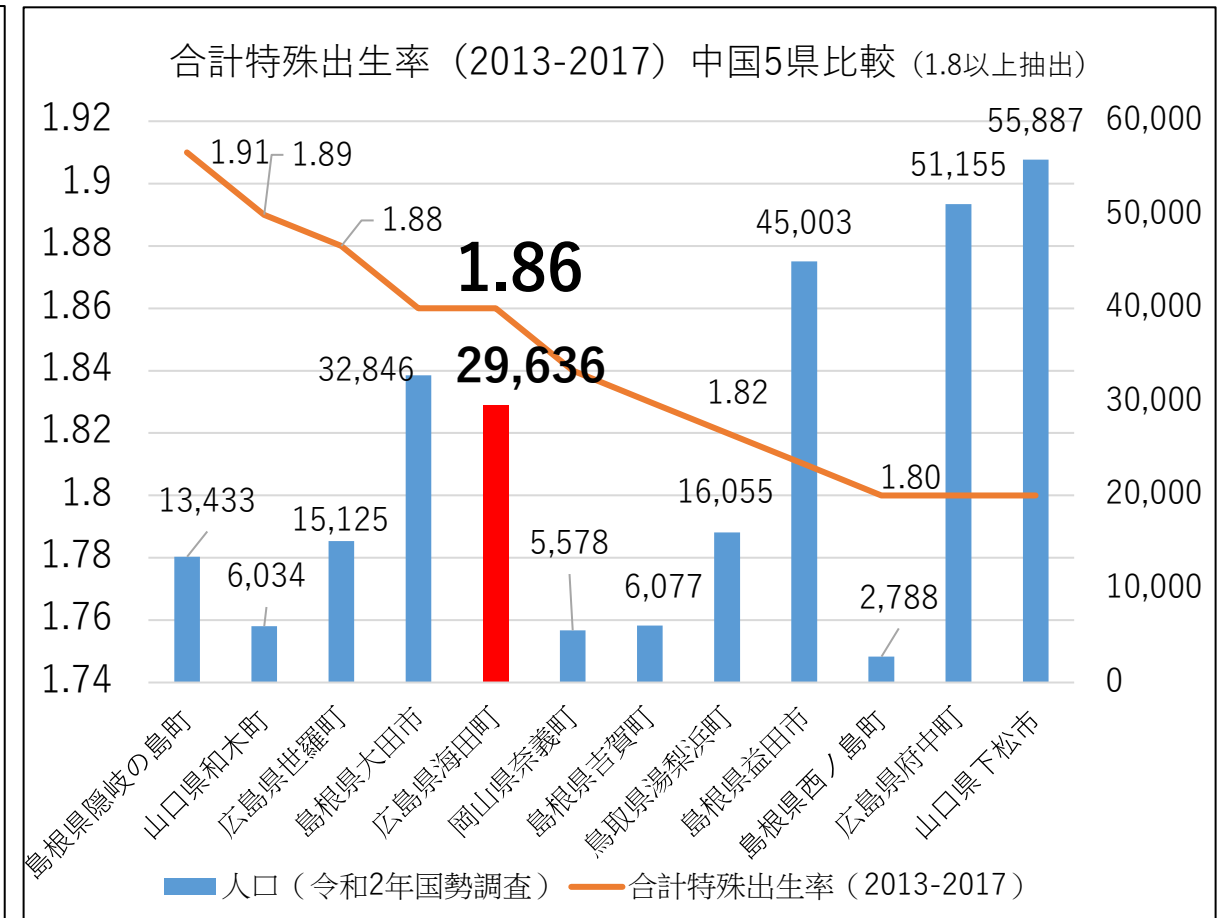
合計特殊出生率（人口動態保健所・市町村別統計（出典：厚生労働省））



合計特殊出生率について、全国で海田町に類似した市町村と、中国5県で合計特殊出生率が1.8倍以上の自治体をそれぞれ抽出し、グラフ化した。



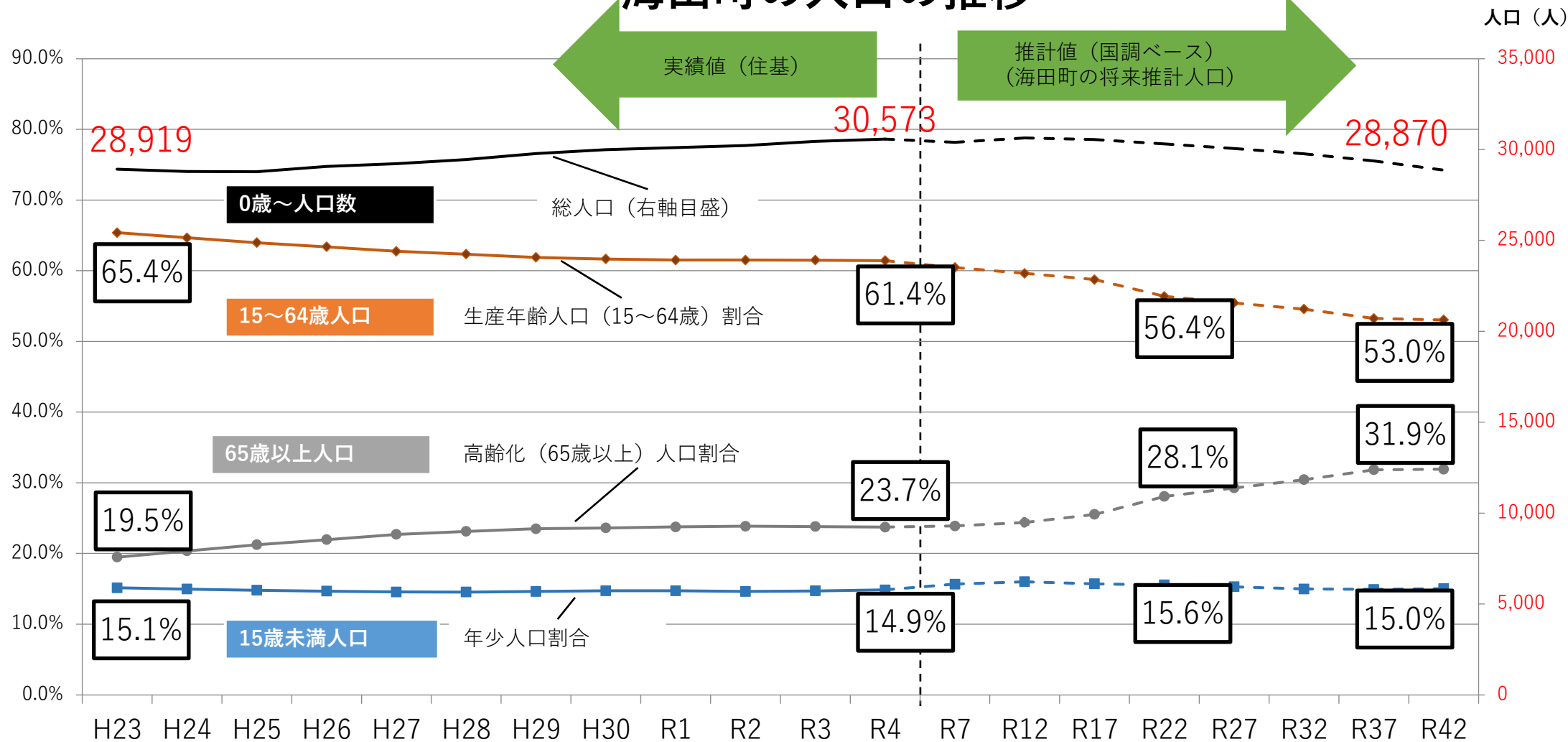
出典：国立国会図書館調査及び立法考査局社会労働調査室・課「海田町、岐南町、大口町、幸田町、篠栗町、荏田町の人口関連指標」のデータを海田町で加工（RESASで全国の自治体から、人口規模2～5万人で年齢階層別人口割合が、海田町と類似し、合計特殊出生率が高い自治体を抜粋）



出典：平成25年～平成29年人口動態保健所・市区町村別統計の概要（厚生労働省）のデータを海田町で加工

Point (仮説1の結果と推定)

海田町の人口の推移



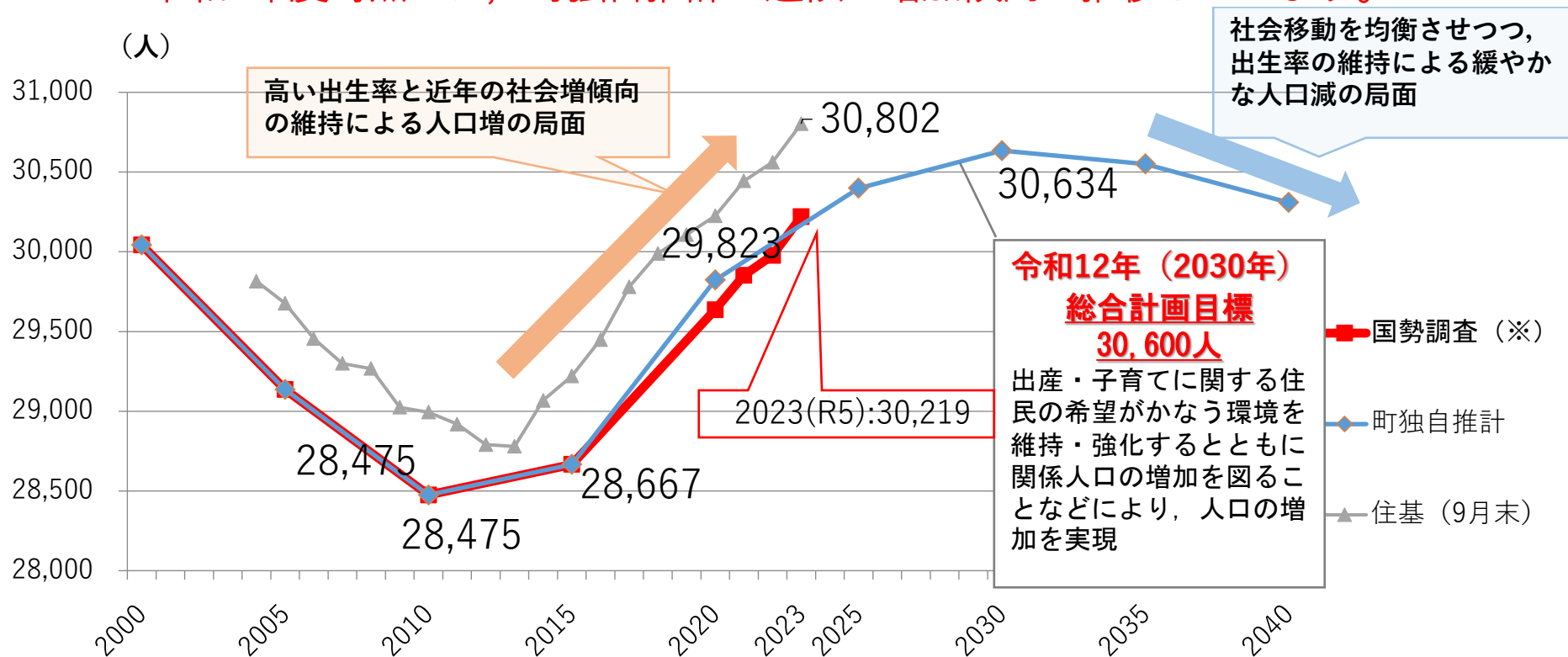
【実績値】 令和5年3月31日現在 (出典：海田町住民基本台帳)

【推計値】 平成27年国勢調査の実績値に基づき海田町で独自集計

Point (仮説2の結果)

総合計画における町独自推計では、出産・子育てに関する住民の希望がかなう環境を維持・強化するとともに、通勤・通学者などの関係人口の増加を図ること等により、今後10年間にわたる人口の増加の実現及び人口の減少局面に入ってから、緩やかな減少幅になることが見込まれています。

令和3年度時点では、町独自推計と近似の増加傾向で推移しています。



※2021以降の数値は人口移動統計：広島県が実施している統計調査で、直近(R2)の国勢調査による人口を起点とし、推計値を算出

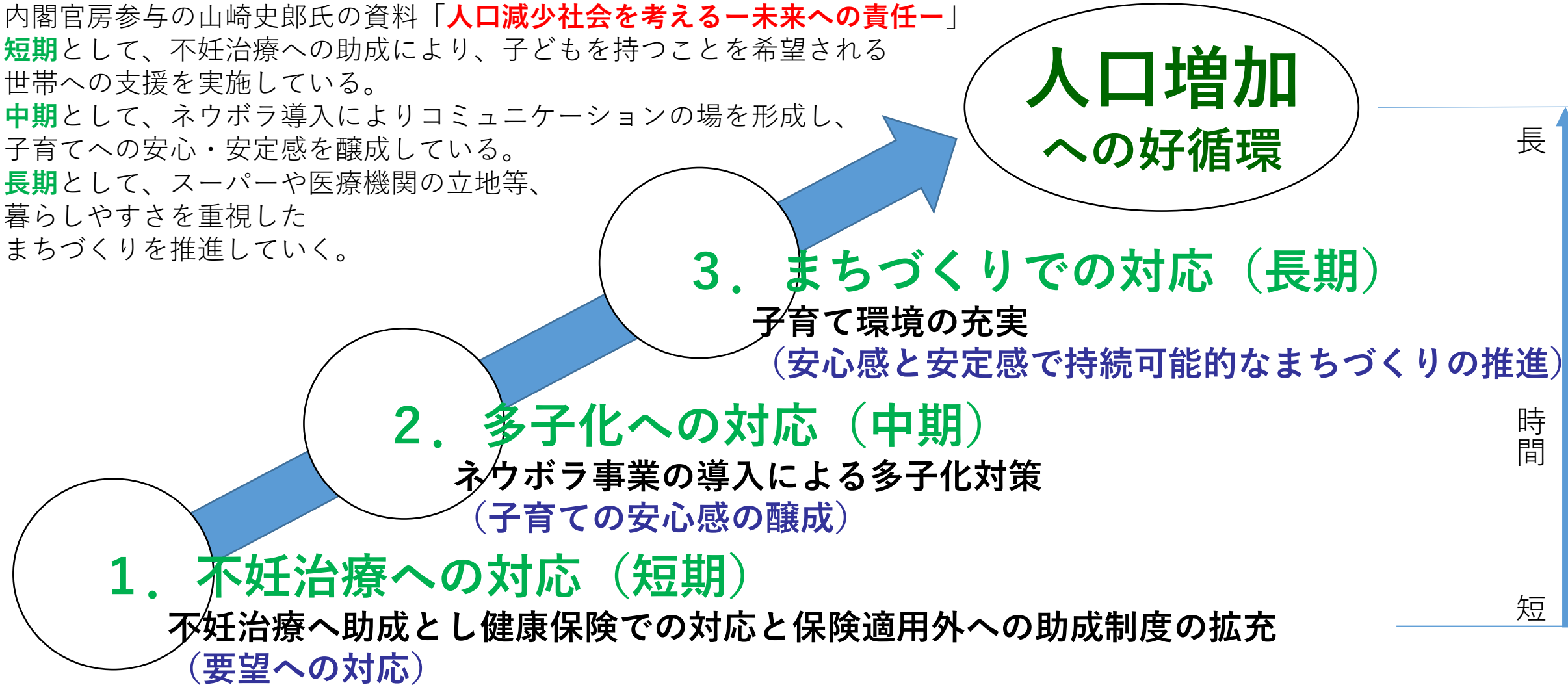
仮説に基づく少子化への対応（少子化対策によって出生率が向上すれば）

○本町の人口対策は、「**地方消滅**」というタイトルで衝撃を与えた「増田レポート」がきっかけであり、適切な施策を打ち消滅を回避する少子化対策に取り組んだ。

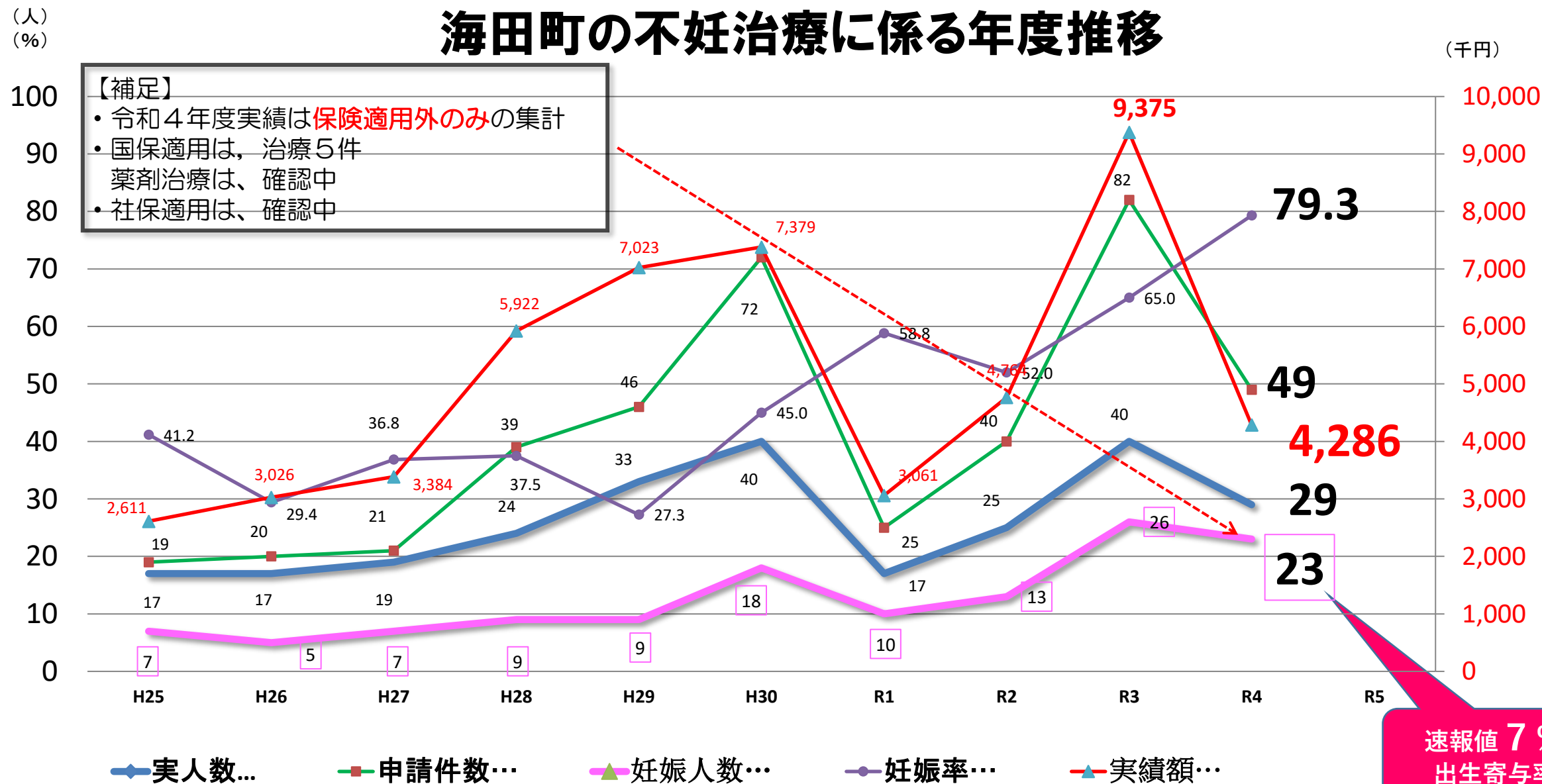
○施策に基づく対応を**期間別**に示している。当整理にあたり、

内閣官房参与の山崎史郎氏の資料「**人口減少社会を考える－未来への責任－**」

- ① **短期**として、不妊治療への助成により、子どもを持つことを希望される世帯への支援を実施している。
- ② **中期**として、ネウボラ導入によりコミュニケーションの場を形成し、子育てへの安心・安定感を醸成している。
- ③ **長期**として、スーパーや医療機関の立地等、暮らしやすさを重視したまちづくりを推進していく。



1. 1 海田町の不妊治療の状況



2. 1 かいた版ネウボラの経緯

年度	月	新規事業
平成29年度	5月	・ かいた版ネウボラ事業プレオープン ・ プレママ教室・ひよこ相談室開始・11か月児親子教室（ぐんぐん）開始
	10月	・ かいた版ネウボラ事業オープニングセレモニー開催・本格始動 ・ ひまわりプラザ2階オープンスペース『つどいの広場』リニューアル，3階和室沐浴槽設置 ・ ひまわりプラザで土曜日の母子健康手帳発行開始 ・ 産後ケア事業，産前・産後サポート事業開始
平成30年度	4月	・ 土曜日にお父さん講座等，家族参加型講座を開始 ・ パパママ教室の講座内容の拡充・妊婦通知・妊婦電話開始
	11月	・ ふれあいバスラッピングセレモニー開催・運行開始
令和元年度	5月	・ 離乳食教室・ステップ2を開始
	7月	・ 食育支援ファイルの発行開始
	10月	・ ネウボラアプリの開始
	1月	・ トゥオヴィ・ハクリネン氏 （フィンランド国立保健福祉研究所母子保健部門研究総括部長：ネウボラ保健師）来館 ・ 広島ネウボラ・シンポジウムに参加
令和2年度	4月	・ 地区担当保健師の体制強化
	5月	・ オンラインを活用した教室等の開始
	6月	・ 海田児童館・町民センターでひよこ相談を開始
令和3年度	4月	・ 子育て家庭おむつ支給事業を開始
令和4年度	4月	・ ネウボラ事業に発達支援事業を位置づけ，療育につなげる取組を推進 ・ 産後ケア事業の訪問型（アウトリーチサービス）を開始
令和5年度	4月	・ 産後ヘルパー派遣事業の対象を産後1年未満に拡大

①父親の育児参加

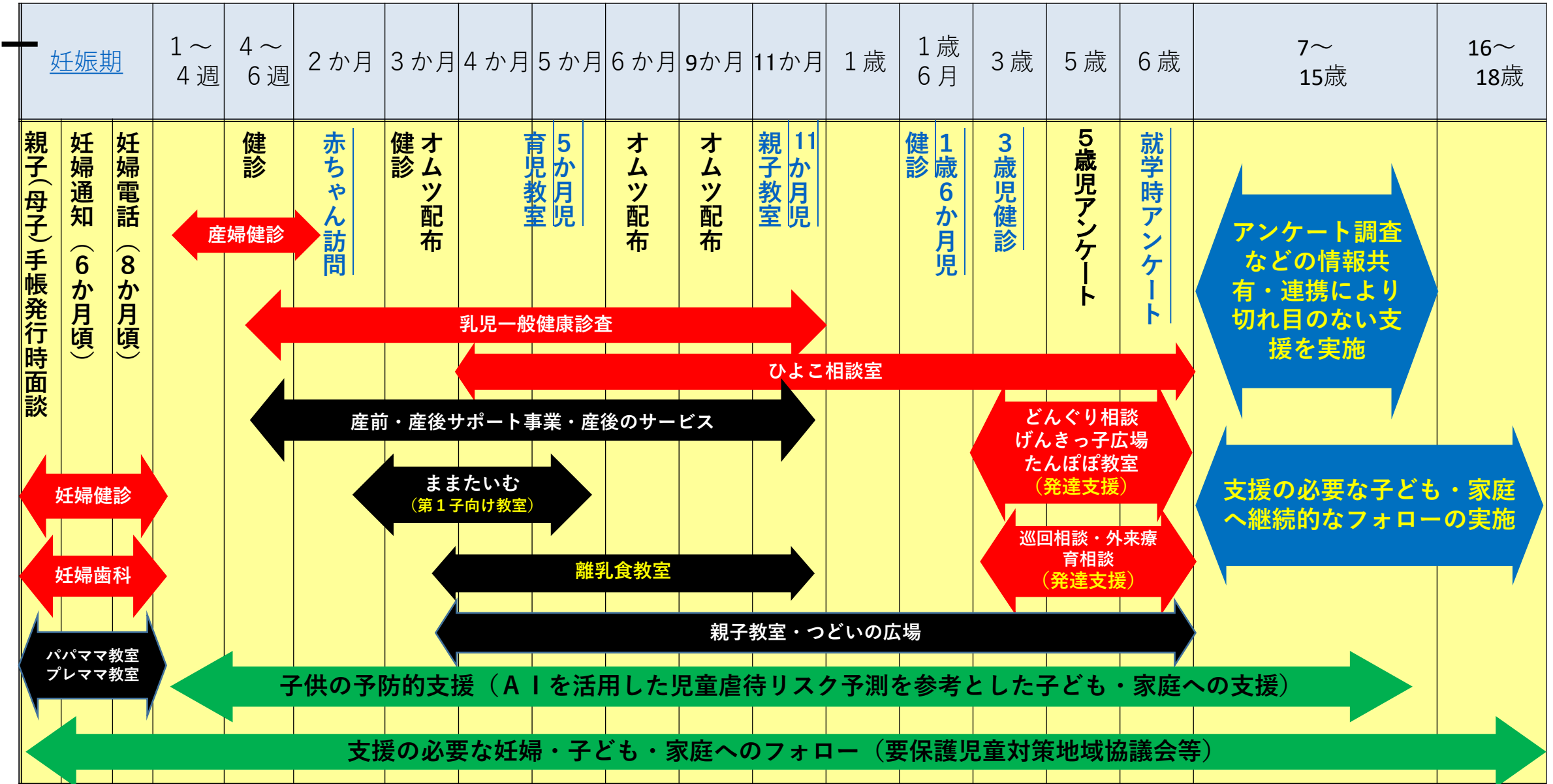
②ネウボラ・アプリ導入

③オンラインおしゃべり広場

④おむつの支給

2. 2 かいた版ネウボラタイムライン

かいた版ネウボラタイムライン



「ひろしま版ネウボラ」理念

広島で生まれ、育つすべての子供たちの健やかな育ちに向けて、広島で子育てをするすべての人が、地域とのつながりを感じ、『あたたかく見守られている』と心から実感できる社会を実現する。

「ひろしま版ネウボラ」とは

全ての子育て家庭の状況を漏れなく・切れ目なく把握し、それぞれの状態に応じた適切な支援サービスにつなげるとともに、**子育て家庭の不安が解消するまで見守り・支援する仕組み**

「ネウボラ」とは

フィンランド語「Neuvo la」はアドバイスの場という意味。フィンランドにおいて妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行う拠点。

【ひろしま版ネウボラの取組】

◇面談回数の追加・完全な全数把握

⇒国が求める5回の面談に2回以上追加し、妊娠期（母子健康手帳交付時）から3歳までの間に計7回以上の面談を実施

⇒国が求める5回の面談については、100%の家庭の状況を把握

◇関係機関との連携

⇒支援が必要な家庭の基準を医療機関や保育機関等の関係機関と共有し、当該基準に基づいて市町に情報提供する仕組みの構築

◇子育て家庭に選ばれる相談窓口

（困る前からつながっていることで、いざという時に頼ってもらえる窓口を目指す）

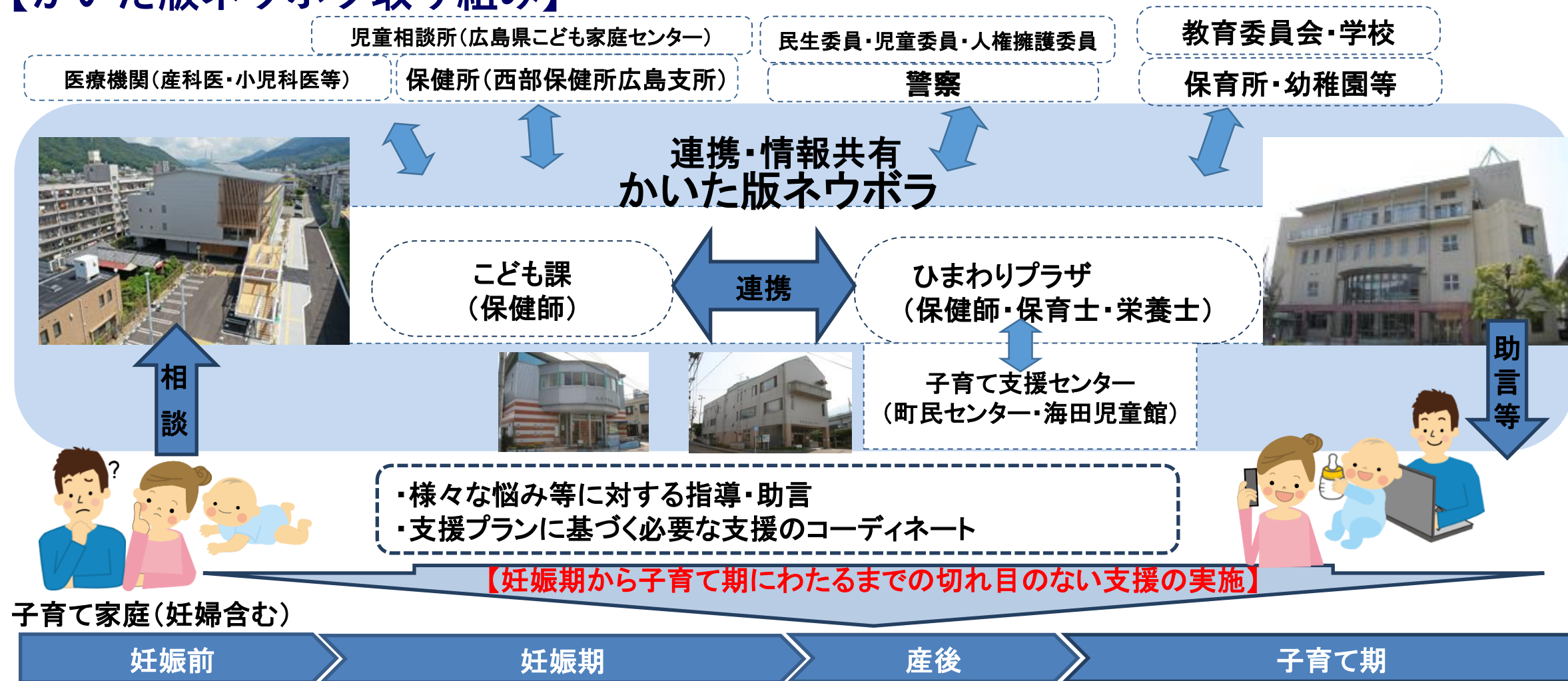
⇒拠点に配置されたネウボラ相談員が、氏名を明示した上で、妊娠期（母子健康手帳交付時）から継続して対話を実施

2. 4 かいた版ネウボラの取り組み

【ひろしま版ネウボラの取り組み】◇関係機関との連携

⇒ 支援が必要な家庭の基準を医療機関や保育機関等の関係機関と共有し、当該基準に基づいて市町に情報提供する **仕組みの構築**

【かいた版ネウボラ取り組み】



2. 5 ひろしま版ネウボラによるかいた版ネウボラのモデル事業



かいた版ネウボラ
湯崎広島県知事
セレモニー



かいた版
ネウボラ・バス



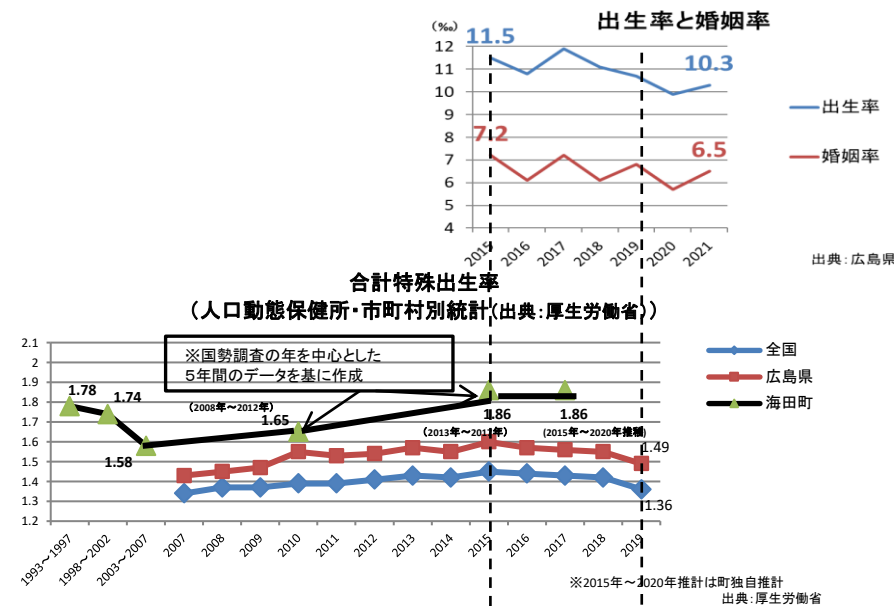
トゥオヴィー ハクリネン所長
(フィンランド国立保健福祉
研究所)

2. 6 女性人口と出生率等

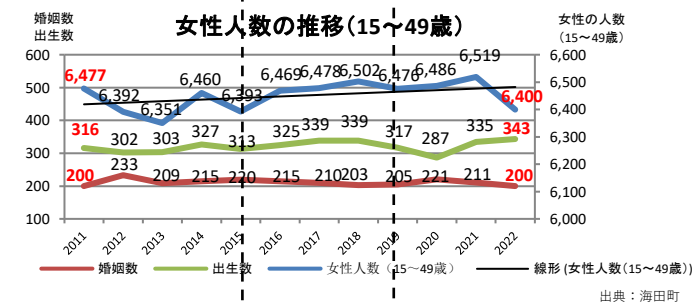
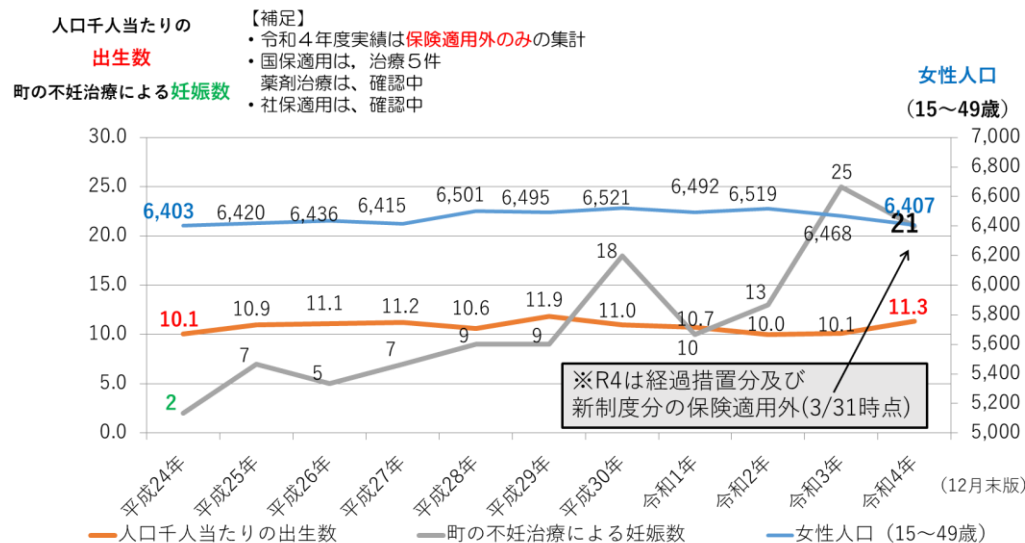
Point

- 出生率、婚姻率ともに県内市町で最も高い

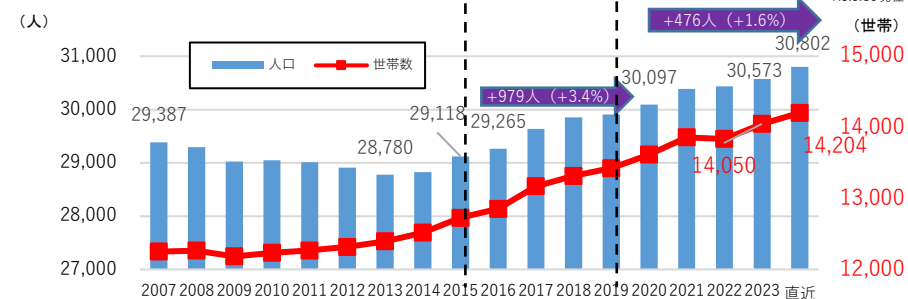
- 合計特殊出生率 **1.86** と広島県、全国を上回る
- 2.07**（人口置換水準）を目指す必要あり



女性人口（15～49歳）・出生数・不妊治療による妊娠数

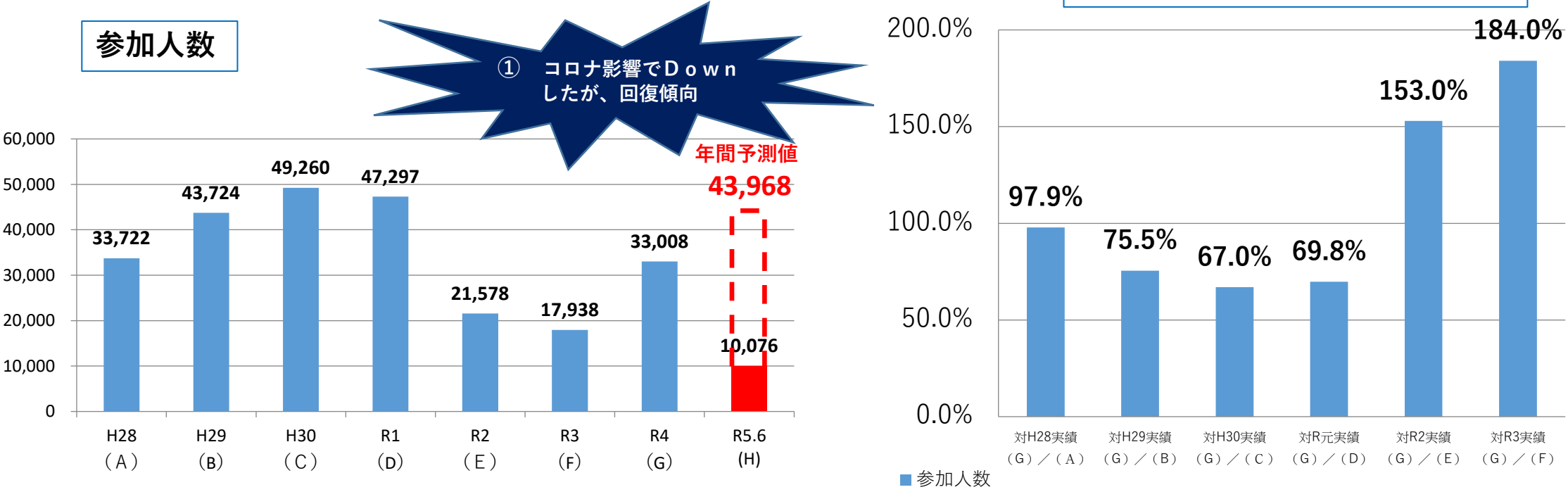


海田町人口・世帯数推移（3月末住基人口）



かいた版ネウボラ参加状況

令和4年度参加者 各年度対比



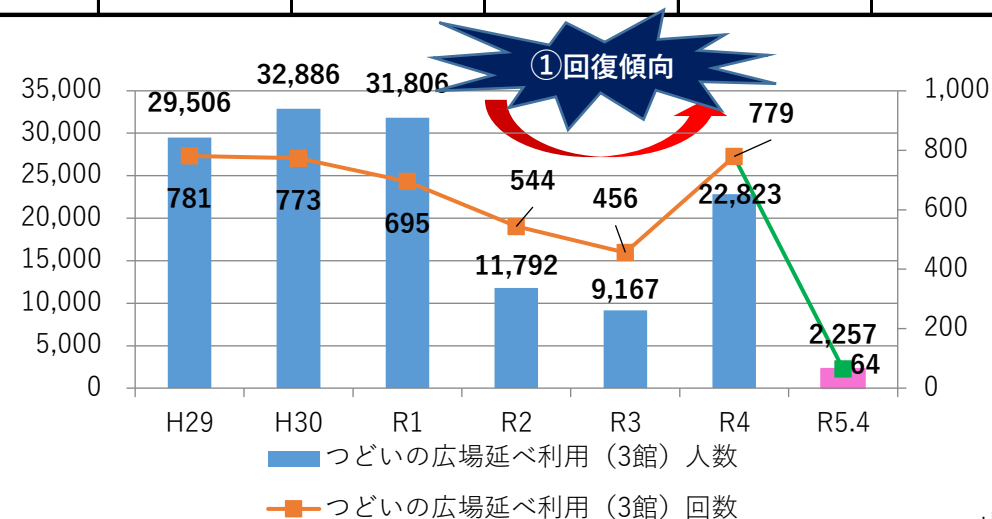
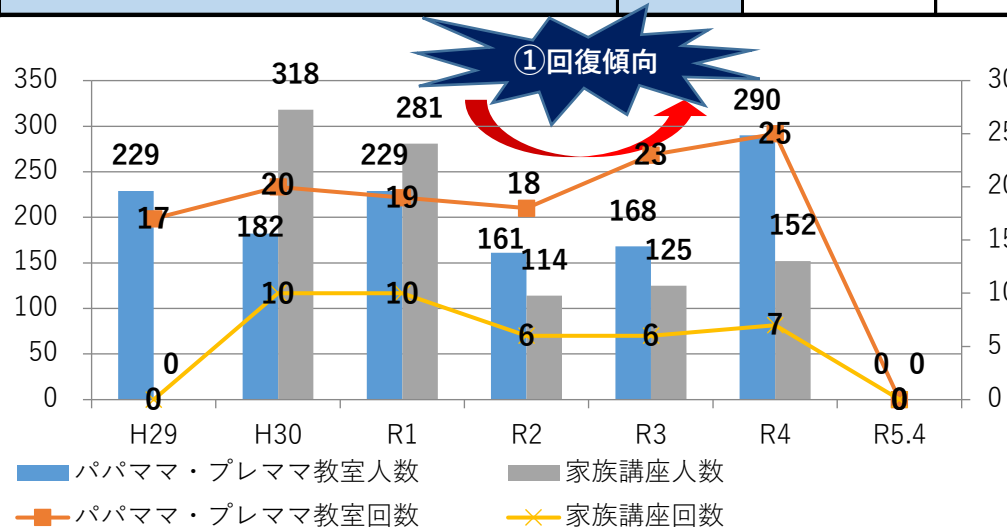
(人) 参加人数

	H28 (A)	H29 (B)	H30 (C)	R1 (D)	R2 (E)	R3 (F)	R4 (G)	R5.6 (H)	対H28実績 (G) / (A)	対H29実績 (G) / (B)	対H30実績 (G) / (C)	対R元実績 (G) / (D)	対R2実績 (G) / (E)
参加人数	33,722	43,724	49,260	47,297	21,578	17,938	33,008	10,076	97.9%	75.5%	67.0%	69.8%	153.0%

かいた版ネウボラ利用状況（第5次総合計画行動指標）

つどいの広場（子育て支援センター3館）：海田児童館・町民センター月～金 9時～14時 ひまわりプラザ月～土 10時～16時

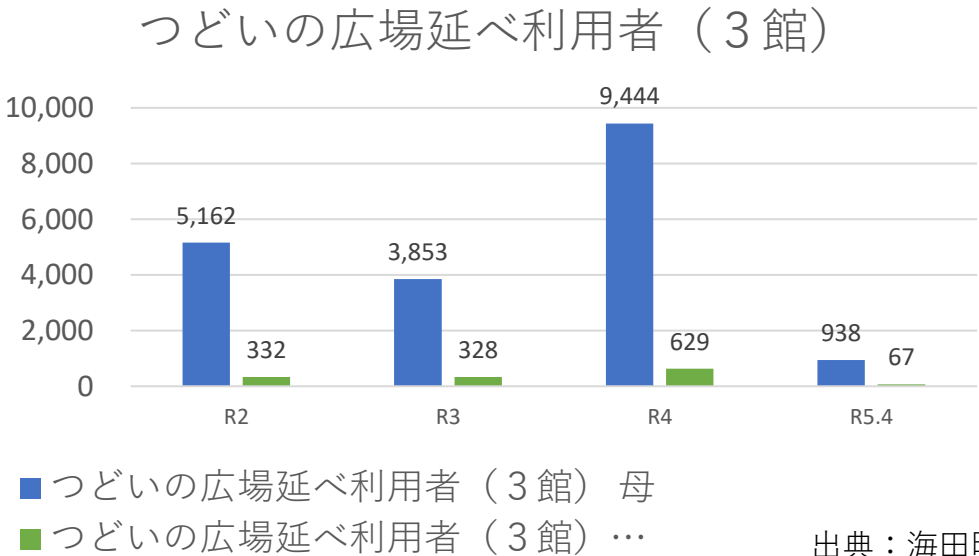
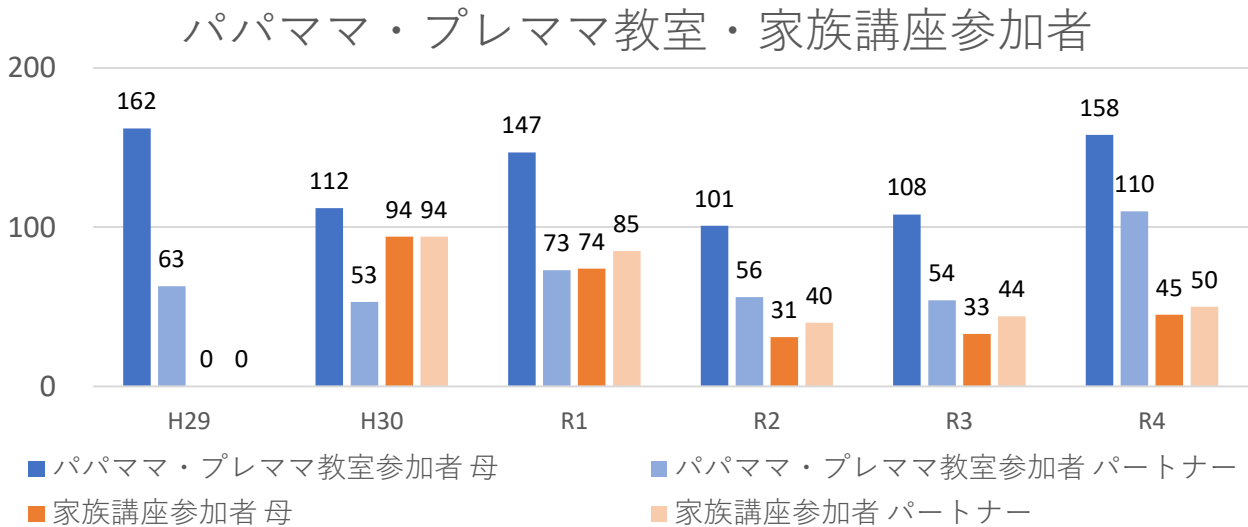
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5.4
パパママ・プレママ教室	人数	229	182	229	161	168	290	0
	回数	17	20	19	18	23	25	0
家族講座	人数	—	318	281	114	125	152	0
	回数	—	10	10	6	6	7	0
つどいの広場延べ利用（3館）	人数	29,506	32,886	31,806	11,792	9,167	22,823	2,257
	回数	781	773	695	544	456	779	64
その他事業参加者数	人数	13,989	15,874	14,981	9,511	8,478	9,743	1,415



かいた版ネウボラ利用状況（参加人数・属性別内数）

（人）参加人数

		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5.4
パパママ・プレママ教室参加者	母	162	112	147	101	108	158	—
	パートナー	63	53	73	56	54	110	—
家族講座参加者	母	—	94	74	31	33	45	—
	パートナー	—	94	85	40	44	50	—
つどいの広場延べ利用者（3館）	母	—	—	—	5,162	3,853	9,444	938
	パートナー	—	—	—	332	328	629	67

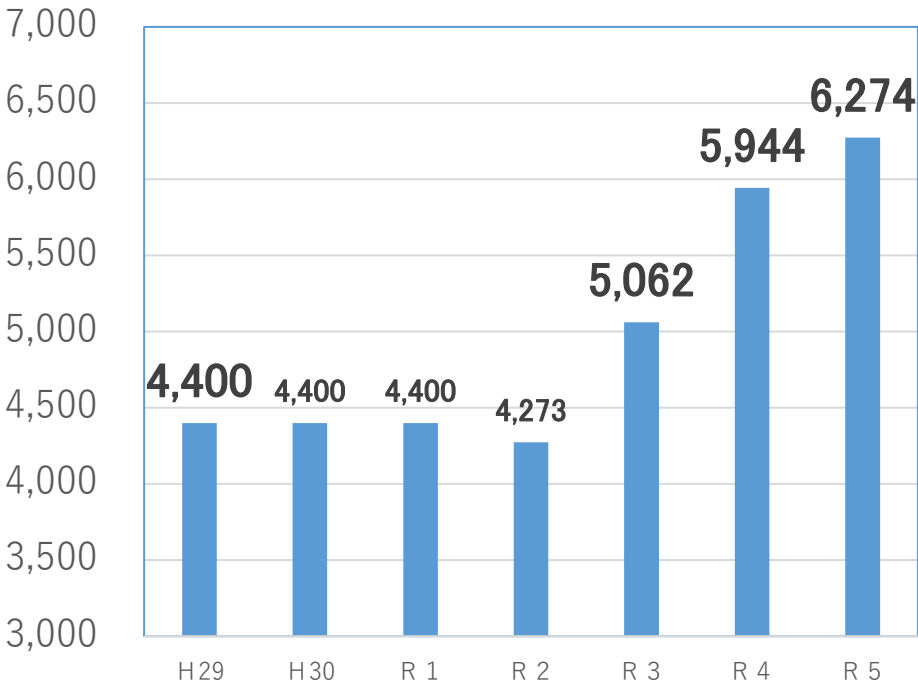


かいた版ネウボラ（プレゼント）

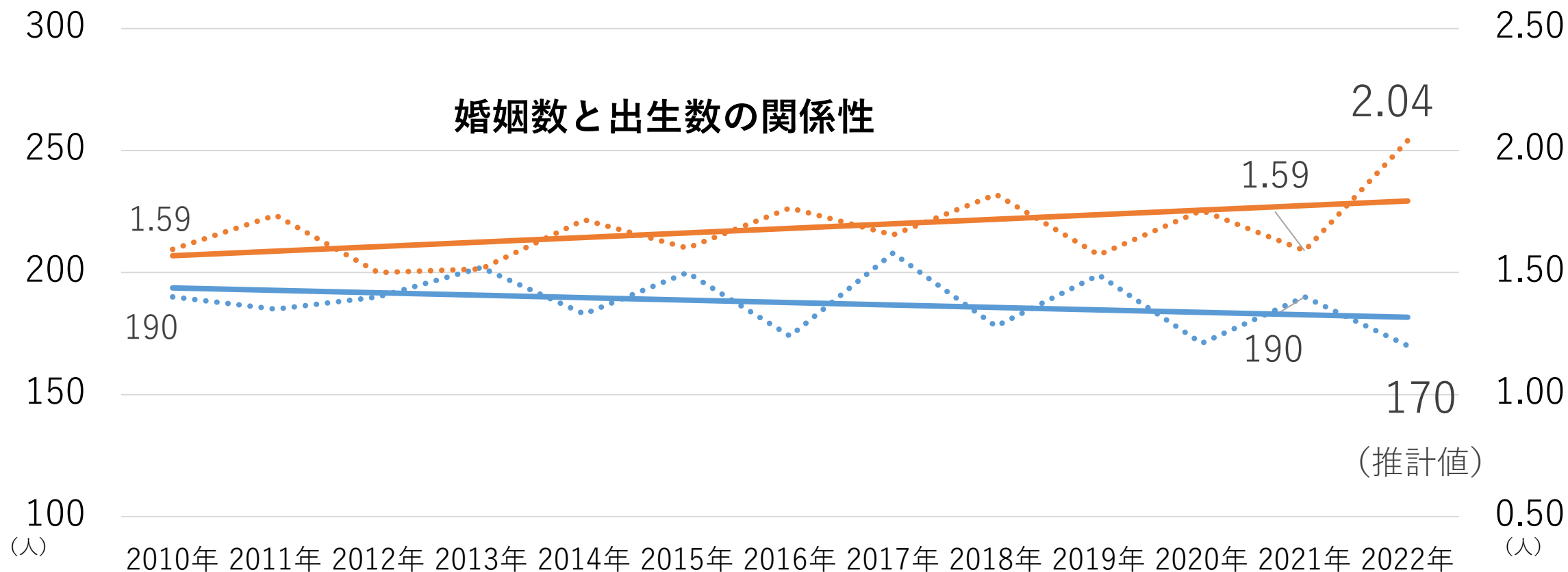
商品	対象	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
4,000円相当の商品選択	11か月児親子教室参加者							
離乳食エプロン	赤ちゃん訪問対象者							
3,000円相当の商品（知育玩具等）	11か月児親子教室参加者							
紙おむつ（回数により知育玩具等配布）	生後3・7・9か月時							
紙おむつ（3回支給）	生後3・7・9か月時							
紙おむつ（3回支給）	生後3・7・9か月時							
お誕生日絵本	11か月児親子教室参加者							

紙おむつ支給の際には、保育士や保健師等が発育状況等を確認し、子育て情報の提供や育児相談に応じています。

プレゼント単価（1人当たり） 単位：円



2. 1.1 海田町の出生率と婚姻率の状況



(12月末時点)

.....婚姻数 (左目盛)

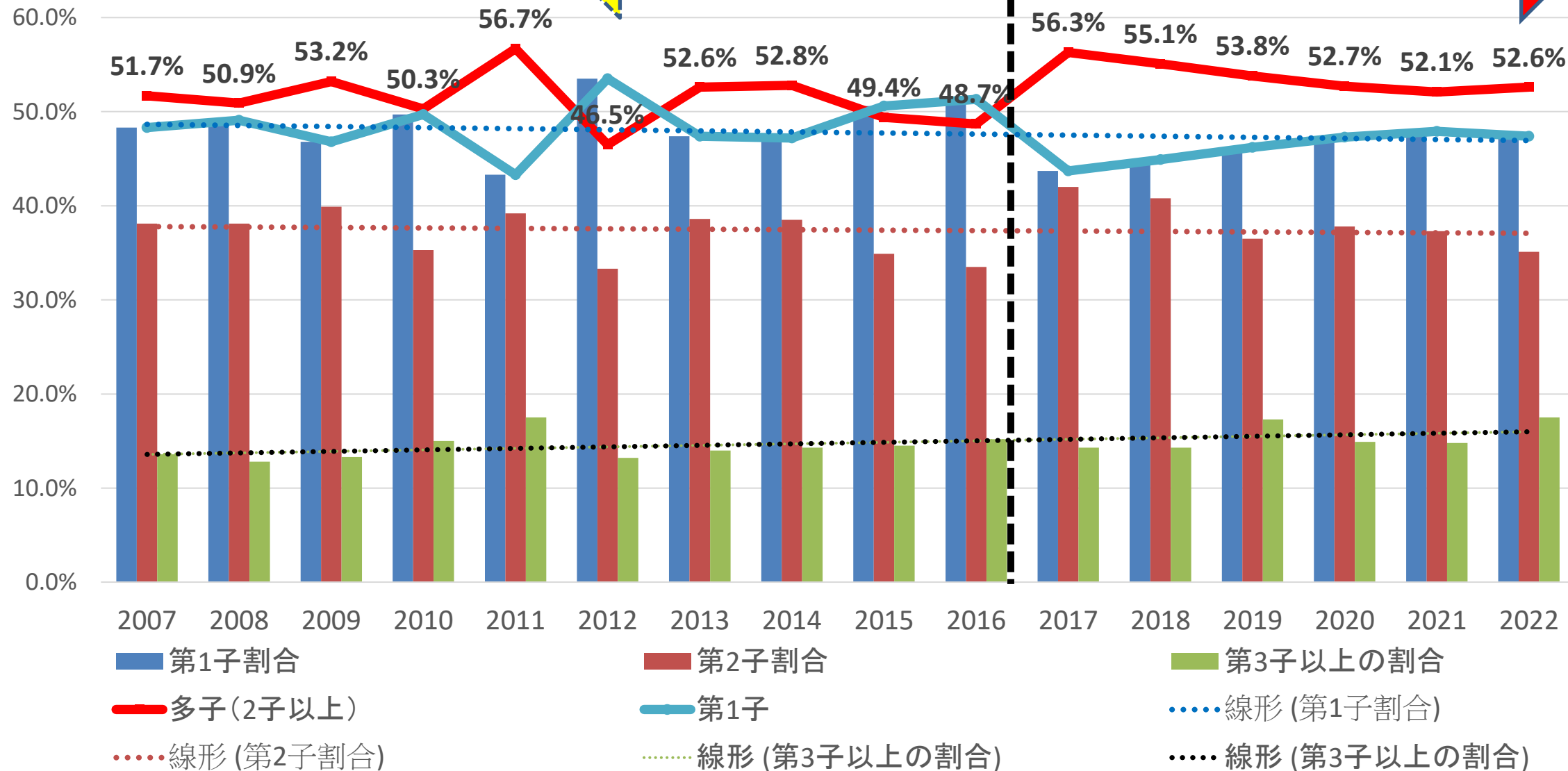
.....出生数/婚姻数 (右目盛)

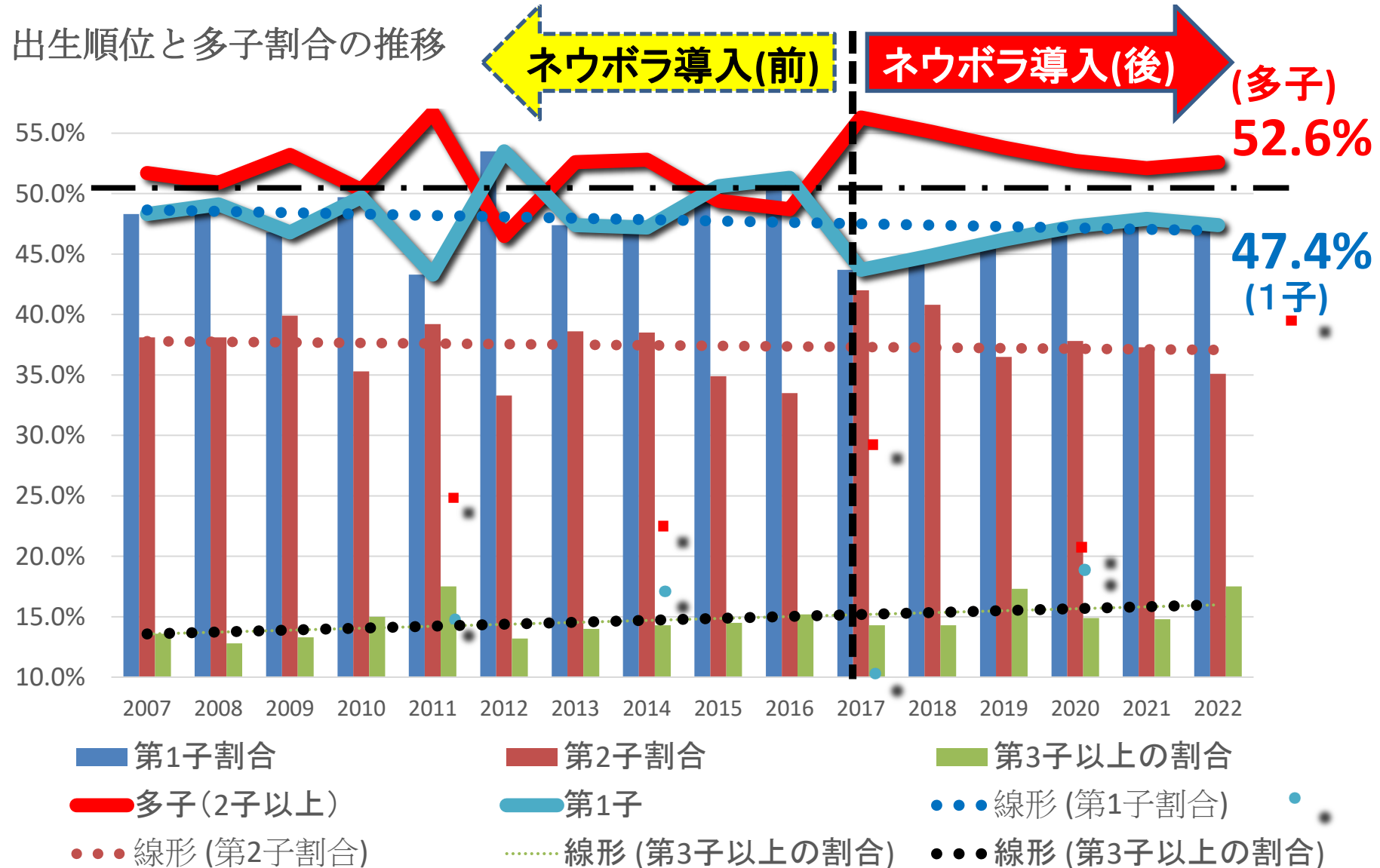
—線形 (婚姻数 (左目盛))

—線形 (出生数/婚姻数 (右目盛))

2. 12 出生順位と多子割合の推移

出生順位と多子割合の推移



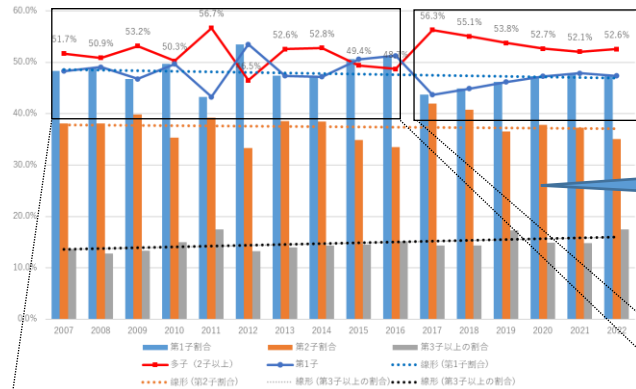


2. 13 かいた版ネウボラ前後の第1子と多子(第2子以降)の状況

平成29年（2017）かいた版ネウボラの開始以降、多子化の傾向で安定して推移している。

ネウボラ開始の前後で、次のとおり変化がみられる・第1子と多子の相関係数⇒**正の相関**
・人口の自然増減・社会増減の推移（移動平均）⇒**安定的な自然増・社会増**

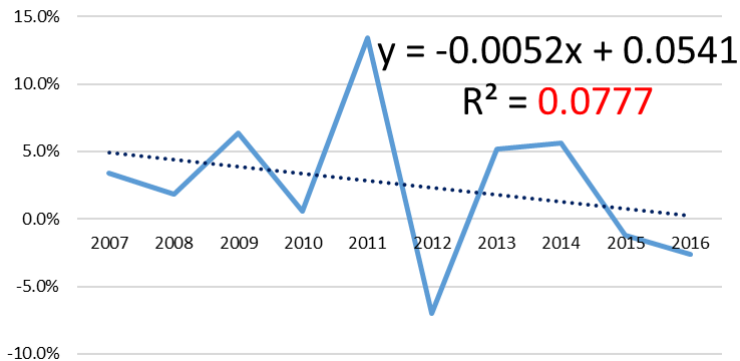
出生順位と多子割合の推移



子ども・子育て支援に関するニーズ調査によると、就学前児や小学生がいる家庭においては、大部分の方は「**子育てがしやすいまちだと思う**」

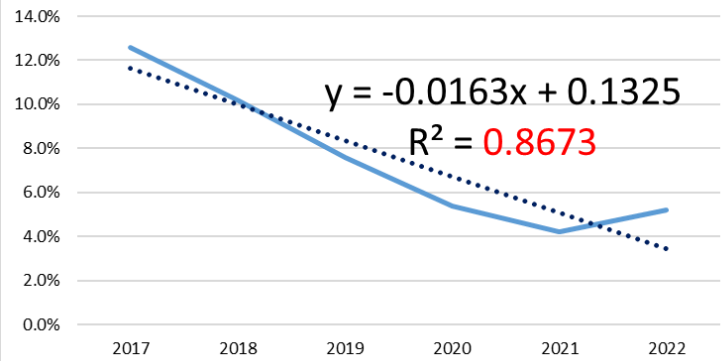
- 就学前児童：**83.7%** n=905
- 小学生：**77.4%** n=1034 と回答している。

第1子と多子割合の相関（ネウボラ前）



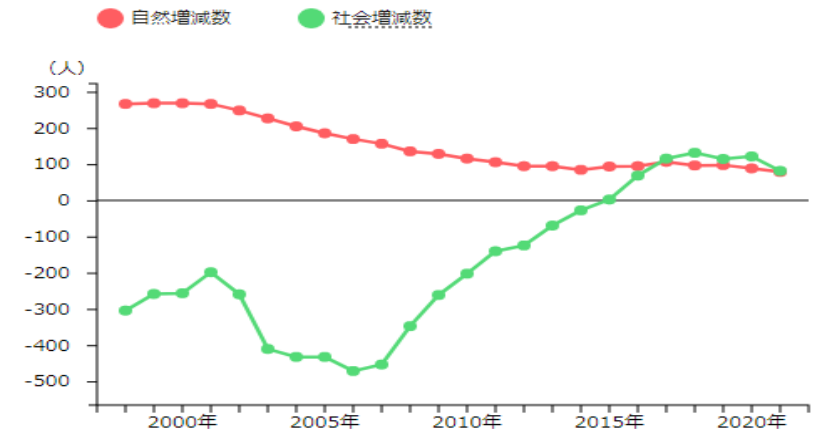
ネウボラ開始（2016年）前第1子と多子の間で**相関性が見られない**。

第1子と多子割合の相関（ネウボラ後）



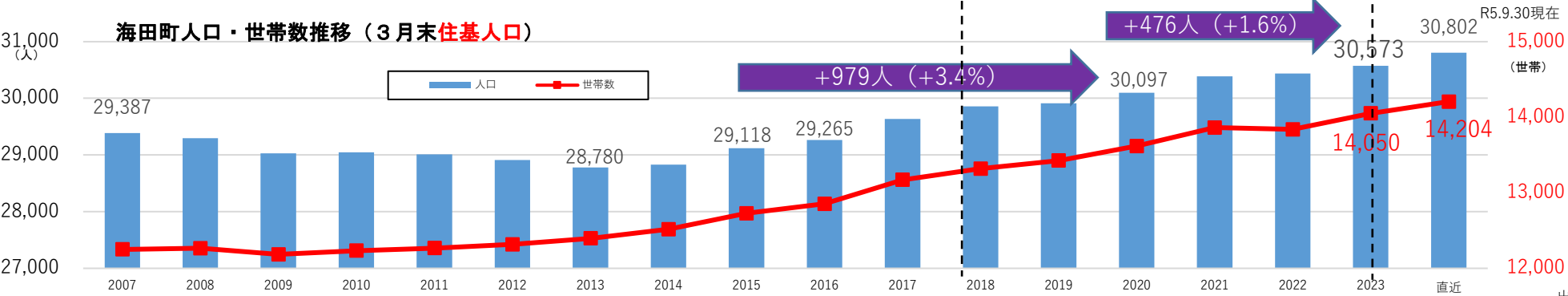
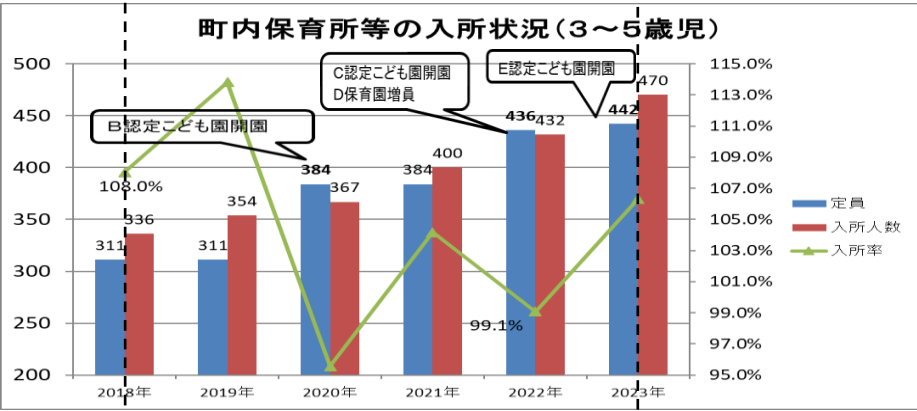
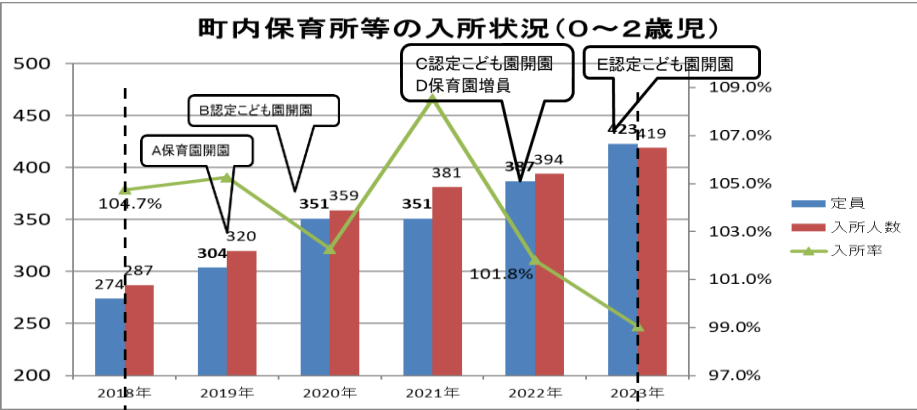
ネウボラ開始（2017年）後第1子と多子の間で**正の相関がみられる**。

広島県海田町



Point

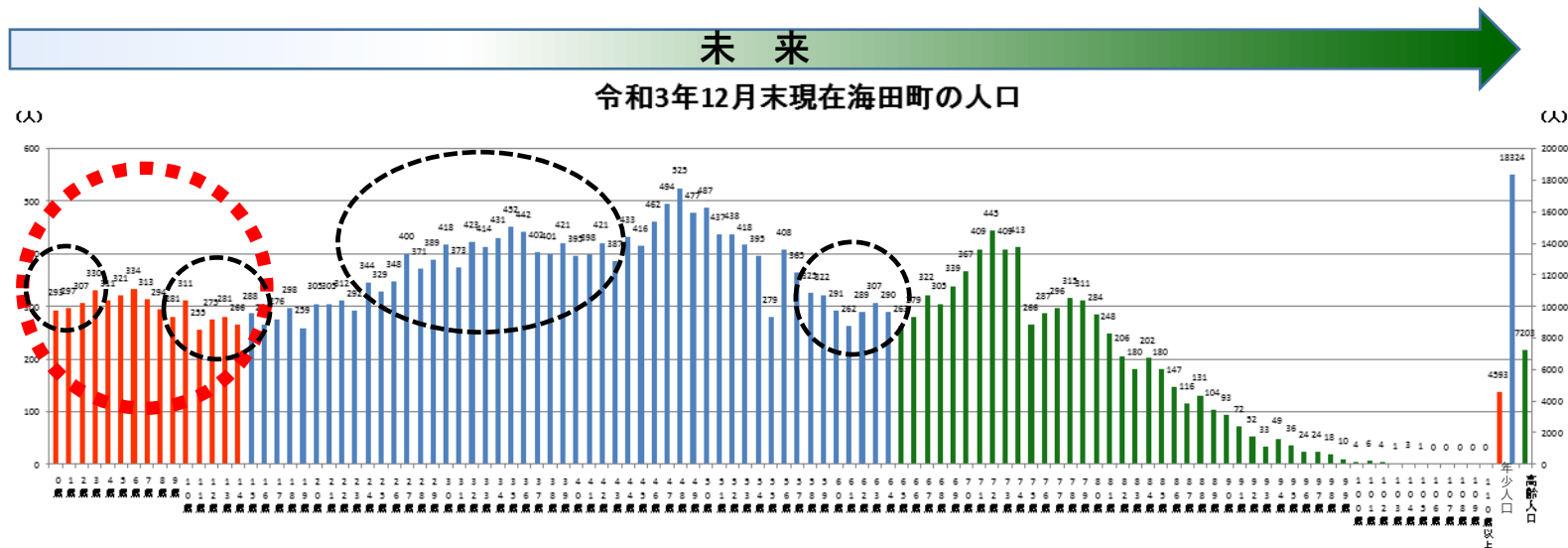
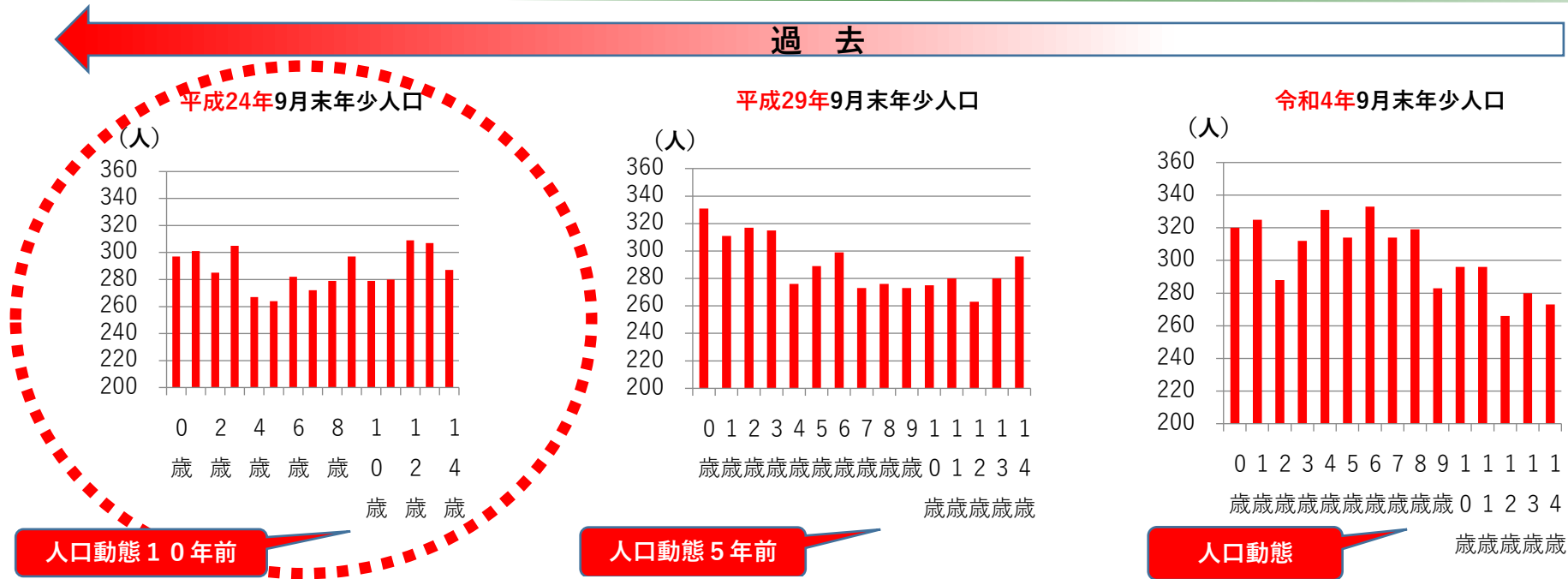
- 年少人口の増加に対応するため、保育園2園、認定こども園3園の整備を支援
- 0～2歳児の定員は、149人、**54%増**
- 3～5歳児の定員は、131人、**42%増**



出典：海田町

3. 2 年少人口の過去10年の推移と3区分人口の未来10年の推計

Point



3. 3 海田町のまちづくりについて ～サマリー～

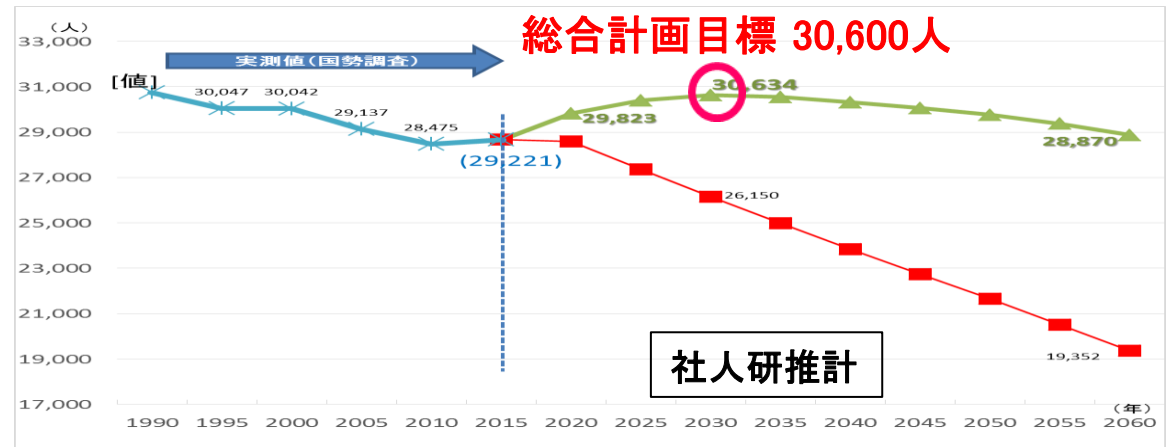
・まちづくりアンケート調査によると、海田町に「ずっと住み続けたい」「当分の間は住み続けたい」と回答した人の合計は**84.9%** (n=1,026) で、多くの人が住み続けたいと考えている。

- ・子ども・子育て支援に関するニーズ調査によると、**就学前児童や小学生がいる家庭においては、大部分の方は「子育てがしやすいまちだと思う」**(就学前児童：**83.7%**、n=905 小学生：77.4% n=1034)と回答している。
- ・就学前児童いる家庭において、「**子育てがしやすいまちだと思う**」と回答した人の大部分が「**住み続けたい**」(子育てしやすいまちだと思うと回答した人のうち、住み続けたいと回答した人：91.8% n=905)と回答している。

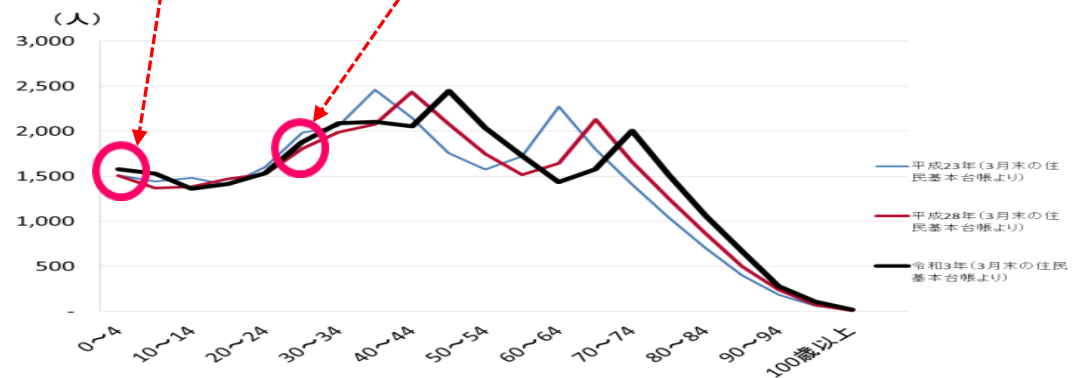
住民の皆様へ、より暮らしやすさを実感していただくため、新たに策定した第5次総合計画では、目指す都市像「**ひと・まち・みらいをつなぐ 暮らしやすさが実感できるまち**」の実現を掲げ、特に重要な5つの視点を踏まえ、まちづくりの方向性を設定

- ①ライフステージに応じた必要な支援
- ②次代を担う人材の育成
- ③災害復旧復興・インフラ強靱化の推進と防災・減災体制の強化
- ④多様な魅力による集客とまちの活性化
- ⑤持続可能な都市基盤の整備

社人研推計では、2060年の海田町人口は20,000人を割り込む。町の活力の基となる人口を維持していくため、第5次総合計画における令和12年の人口の目標を**30,600人**に設定することで、**『2060年人口が2015年を下回らない』**



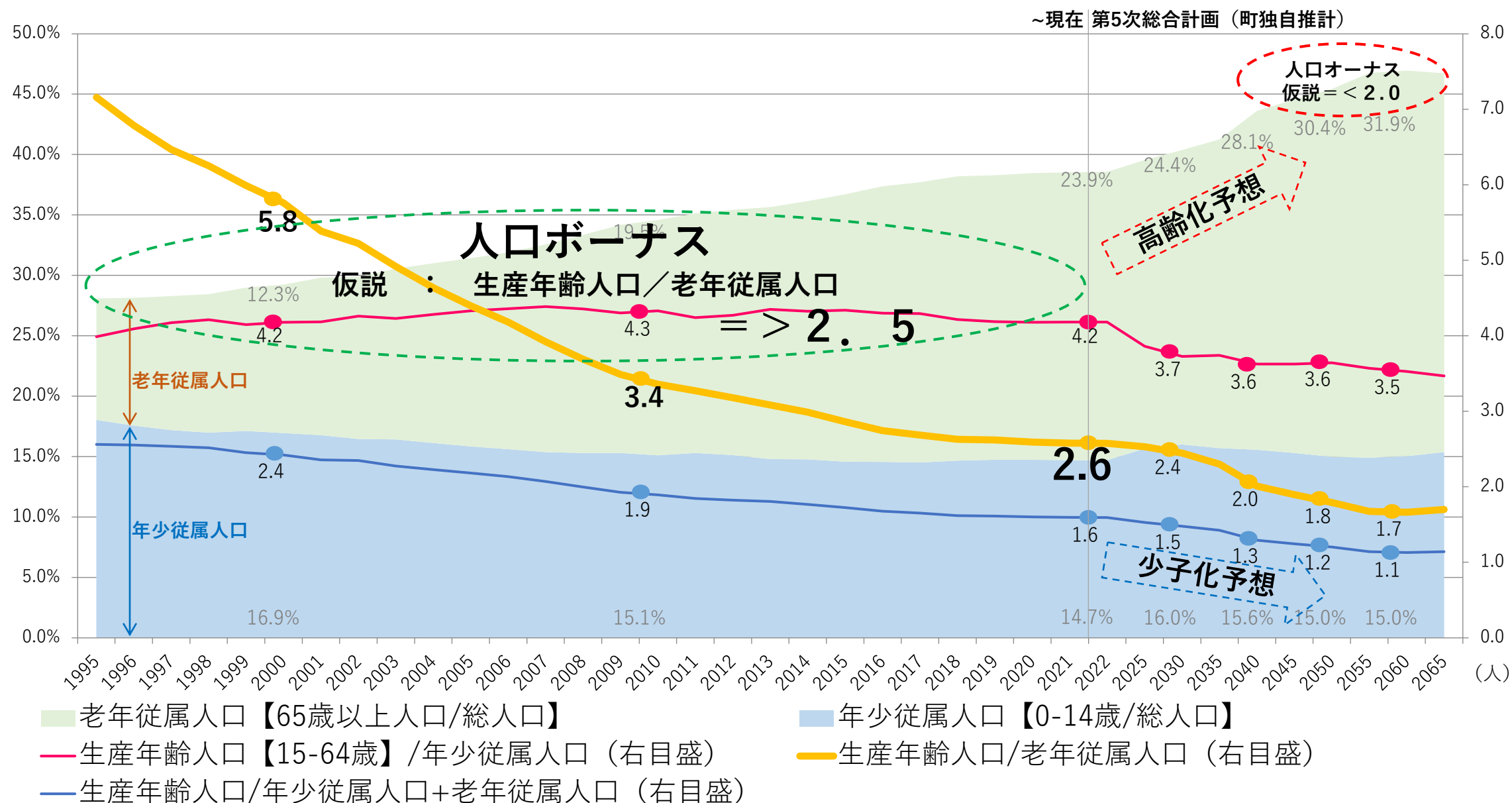
人口増加のためには、**子育て世代の転入が必要**
特に、子育て環境整備・子育て世代への支援充実することで、(かいた版ネウボラ 等)
出生数の増 ← 子育て世代の転入 による。



※海田町の人口増は、国勢調査の結果にも現れている。
平成27年国勢調査人口：28,667人
→ 令和2年国勢調査人口：29,636人(+969人)
県全体▲1.6%に対して、海田町は県内市町の中で人口増減率が**最も高い3.4%の増**

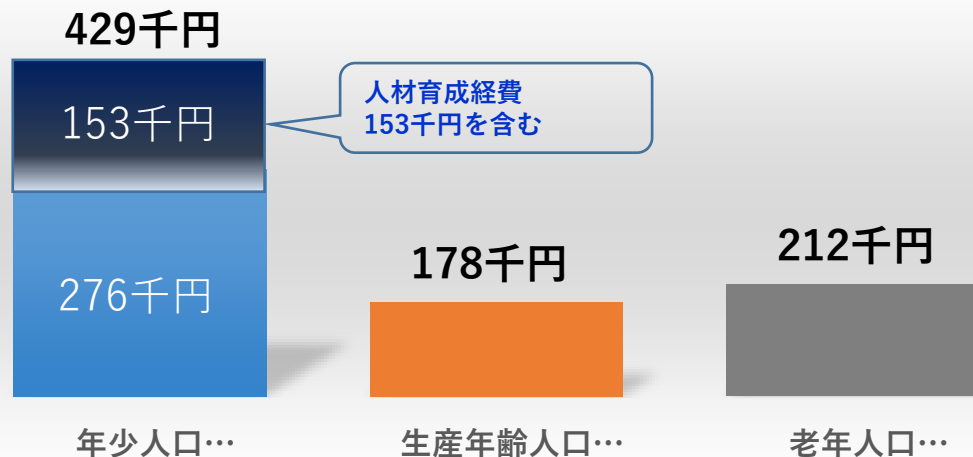


3. 6 人口ボーナスと人口オーナス（概念）

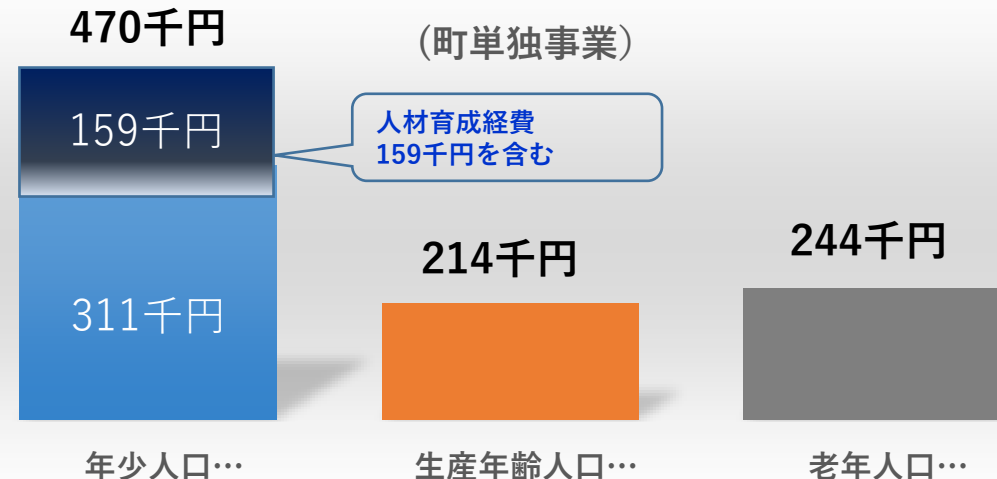


3. 9 年齢別人口の変遷と年代別一人あたり事業費の推移(H27→R3)

H27決算 年代別一人あたり事業費（町単独事業）



R3決算 年代別一人あたり事業費（町単独事業）



○一人あたり事業費では、年少人口一番多く、次いで老年人口となっている。
○H27とR3比較では、総じて一人あたり事業費が増加している。

海田町の3区分人口の状況

